

新古改撰誌記

御役出
目付無役

卷之九

跡抱

(朱書)
「五百三」

寛政十二申年二月廿五日伊豆守殿被仰渡候

御目付江

御中間

池田辰之助

右葉草仕立方御用出役可被申渡候、勤候内為御手当三人扶持被
下候、身分之儀者是迄之通相心得、勤方之儀者奥詰医師渋江長伯
得差図可相勤旨可被申渡候、長伯可被談候

享和二戌年六月廿八日兵部少輔殿專何を以被仰渡候段、長三郎殿
立合勒負殿被申渡候

御目付江

御中間

神谷佐市

右諏訪部文右衛門支配御口之者明跡江可申渡候、文右衛門可被
談候

同年七月四日御勘定奉行衆より之達シ

御目付衆江

柳生主膳正

△

鈴木喜左衛門元手附

御中間持格

平島磯吉

右磯吉儀手痛ニ而執筆相成兼候ニ付、元場所江御差戻之儀相願候
間其段申上候処、願之通可仕旨昨三日伊豆守殿被仰渡候、然処
磯吉儀此節病氣ニ付右之段名代之もの江申渡候ニ付、此段御達申候

戊七月

△石川友一左衛門承之

享和三亥年五月六日兵部少輔殿被仰渡候段、於佐野宇右衛門宅永
井勒負殿立合佐野宇右衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

河野鍋次郎

右勤方不宣候ニ付、御目付支配無役申渡押込置可被申候

同年五月廿四日備中守殿被仰渡候段、佐野宇右衛門殿立合永井勒
負殿被申渡候

御目付江

御中間

山本清十郎

中山仁左衛門

橋本定四郎

御掃除之者

飯島平左衛門

右二丸御小人明キ跡江可被申渡候、平左衛門儀者勤候内並之通御足高被下候間其段可被申渡候、尤二丸御留守居可被談候

文化元子年 月

御代官

萩原弥五兵衛手附

瀬戸順四郎

右撰津守殿被仰渡候段、次兵衛殿立合伊織殿被申渡候

文化二丑年七月廿日

御目付江

御普請方役所
門番人出役江

御中間

池田安兵衛

右能登守殿被仰渡候段、伊織殿立合宇右衛門殿被申渡候

同年十二月廿四日備中守殿被仰渡候段、於仙石次兵衛宅齋藤次左

衛門殿立合次兵衛殿申渡

御目付江

御中間

藤村金五郎

右身持不宜候ニ付、何茂支配無役申渡押込置可被申候

文化三寅年九月廿四日能登守殿被仰渡候段、金四郎殿立合中務殿

被申渡候

御目付江

御中間

御普請方役所門番人出役

右御普請方役所門番人可被申渡候、尤御普請奉行江可被談候
池田安兵衛

同年十二月十五日对馬守殿被仰渡候段、金四郎殿被申渡候

御目付江

西丸御広敷御小人

小泉勝藏

右病氣ニ付何レも支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御留守居
へ可被談候

文化四卯年

御目付江

御中間目付

中山金三郎

右小普請方当分仮役相勤候様可申渡候、尤小普請奉行可被談候

同年十一月十八日備中守殿被仰渡候

御目付江

御先手

徳永小膳組同心

武藤金五郎

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御先手江可被
談候

文化五辰年五月廿八日駿河守殿被仰渡候段、宇右衛門殿立合与市

殿被申渡候

御目付江

御中間
三浦泰助

右来ル申年五月迄御勘定吟味方下役江出役可被申渡候、役扶持
式人扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御勘定吟味役江可被談候

同年十二月

覚

私倅

瀬戸順四郎

右私倅順四郎儀是迄元御代官萩原弥五兵衛手附相勤罷在候処、
此度^(〆)御代官矢橋松次郎方手附替被 仰付候、依之此段御届申
上候、以上

辰十二月

瀬戸元次郎 印

文化六巳年十一月八日出羽守殿被仰渡候段、丹下殿立合三太夫殿
被申渡候

御目付江

御中間

横川藤三郎
栗田弥八郎

右御裏門切手同心明跡へ可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・
御足扶持被下置候間其段可被申渡候、尤御留守居へ可被談候

文化八未年八月廿五日撰津守殿被仰渡候段、於御用所前御廊下監

物殿被申渡候

御目付江

御中間
御勘定吟味方下役出役

三浦泰助

右御勘定吟味方下役明跡江可被申渡候、並之通役扶持被下候間
其段も可被申渡候、尤御勘定吟味役江可被談候

文化九申年五月十六日駿河守殿被仰渡候段、猪右衛門殿立合丹下
殿被申渡候

御目付江

御中間

小岩井左源次
近田三之丞

右御普請方同心仮役可被差免候、只今骨折相勤候ニ付銀式枚
ツ、被下候間其段可被申渡候、尤御普請奉行江可被談候

文化十四年七月廿日撰津守殿被仰渡候段、常次郎殿立合助右衛門
殿被申渡候

御目付江

御中間

小永井徳太郎

右巻番町御菓園江罷出織物御用相勤候様可被申渡候、為御手当
式人半扶持被下候間其段も可被申渡候、尤洪江長伯可被談候

文化十三子年八月十二日周防守殿被仰渡候段、三郎右衛門殿被申

渡候

御目付江

御口之者
神谷 権平

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤諏訪部紋九郎可被談候

同年九月

老番町御薬園織物御用出役

神谷兵太夫組御中間
小永井徳太郎

右徳太郎儀眼病ニ付織物御用出役帰役願差出候処、御免之旨一昨廿三日駿河守殿被仰渡候段、洪江長伯申渡候旨徳太郎相届申候、依之申上候、以上

九月廿五日

御中間頭
神谷兵太夫

同年十二月十一日近江守殿被仰渡候段、隼人正殿立合助右衛門殿被申渡候

御目付江

御中間
加藤十三郎

右 御簾中様御広敷御下男組頭過人ニ可被申渡候、勤候内並之通御足扶持被下候間其段可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年十二月十二日周防守殿被仰渡候段、左京殿立合千左衛門殿被

申渡候

御目付江

御中間
石原武助

右諏訪部紋九郎支配御口之者明跡江可被申渡候、尤紋九郎可被談候

同年十二月廿七日老岐守殿被仰渡候段、助右衛門殿被申渡候

御目付江

村松四兵衛支配
西丸御口之者

新左衛門夷子惣領
池谷錠之助

右錠之助儀父家督被下何茂支配無役成候間可被得其意候、尤村松四兵衛可被談候

同年十二月晦日近江守殿被仰渡候段、常次郎殿立合左京殿被申渡候

御目付江

御中間
荒川金八
(通)
御除除之者
高橋清次郎

右御裏門切手同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年 月 日周防守殿被仰渡候

御目付江

吉川加賀守支配

野馬方書役

与平次美子惣領

斎藤与之助

右与之助儀父家督被下何茂支配無役成候間可被得其意候、尤吉川加賀守江可被談候

同日前同断

御目付江

吉川加賀守支配

野馬方書役

小林弥十郎

右老衰二付何茂支配無役成候間可被得其意候、尤吉川加賀守可被談候

文化十四丑年四月朔日駿河守殿被仰渡候段、諸左衛門殿立合隼人

正殿被申渡候

御目付江

御中間

浅井専吉

右村松四兵衛支配御口之者明跡へ可被申渡候、尤四兵衛可被談候

同年 月 日能登守殿被仰渡候

御目付江

西丸切手御門番之頭

古沢弁藏組同心

田辺久左衛門

右老衰二付何茂支配無役二成候間可被得其意候、尤御留守居可被談候

同年 月 日下野守殿被仰渡候段、助右衛門殿被申渡候

御目付江

御代官

大岡源右衛門手附

三郎次養子

高木周藏

同人手附当分出役
右周藏儀養父家督被下何茂支配無役二成候間可被得其意候、尤御勘定奉行へ可被談候

同年 月 日近江守殿被仰渡候段、左京殿被申渡候

御目付江

諏訪部紋九郎支配

御口之者

細野小右衛門

右病氣附二付何茂支配無役成候間得其意、紋九郎被談べく候

同年十一月十日駿河守殿被仰渡候段、忠兵衛殿立合隼人正殿被申渡候

御目付江

御目付支配無役

御代官

大岡源右衛門手附

当分出役

高木周藏

右養父三郎次家督被下候^二付持格^二而源右衛門手附可被申渡候、
尤御勘定奉行可被談候

※「同年」十月三日撰津守殿被仰渡候段、次兵衛殿立合長三郎殿被申

渡候 「※」「印は卷末参照」

御目付江

小林伝之丞

右二丸同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持
被下候間其段も可被申渡候、尤二丸御留守居可被談候

※「同年」十一月十二日兵部少輔殿被仰渡候段、次兵衛殿立合虎之助

殿被申渡候

御目付江

御中間

加藤寛右衛門

右御留守居同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足
扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年十二月十九日周防守殿被仰渡候段、与左衛門殿立合忠兵衛殿

可被申渡候

御目付江

御中間

秋本半次郎

山県権之助

右者諏訪部紋九郎支配御口之者明跡江可被申渡候、尤紋九郎可
被談候

文政元寅年二月五日左兵衛佐殿被仰渡候

御目付江

西丸御納戸同心

勝五郎養子

平井金次郎

右金次郎儀養父家督被下何^茂支配無役^二成候間可被得其意候、
尤西丸御納戸頭可被談候

文政二卯年 月 日紀伊守殿被仰渡候段、与左衛門殿立合源六郎

殿被申渡候

御目付江

御中間頭

作右衛門倅

小宮山和吉

右何^茂支配無役世話役可被申渡候、御切米式拾俵式人扶持被下
候間其段可被申渡候

文政三辰年正月元日近江守殿被仰渡候段、市左衛門殿被申渡候

御目付江

御台所番

有賀平藏

右病氣^二付小普請入相願候得共小普請入難相成、何^茂支配無役^二
成候間得其意被申渡候

同年五月廿九日周防守殿

御目付江

御馬御口之者

飯塚富次郎

右病氣ニ付何茂支配無役成候間得其意、諏訪部紋九郎可被談候

同年十二月十六日

諏訪部紋九郎支配

御口之者

山県権之助△

右之者痛所ニ付元場所江帰番願之通、昨十五日周防守殿御差函ニ而相濟承り附ニ而返上仕候、右写老通差上申候御請取可被下候、右ニ付権之助御引渡申上候、日限等相伺申候、以上

十二月十六日

諏訪部紋九郎

当御番

御目付中

書面山県権之助請取方之儀、幾日ニ而も差支無御座候

御中間頭

小林五兵衛

十二月十六日

同年

諏訪部紋九郎支配

御口之者

山県権之助

右之者痛所有之候ニ付元場所へ帰番被仰付候段、去十五日周

防守殿被仰渡候旨ニ而、紋九郎より昨十七日引渡候間受取申候、依之申上候、以上

十二月十八日

御中間頭

三名

文政五年閏正月二日亥蕃頭殿被仰渡候段、市左衛門殿立合弥八郎殿被申渡候

御目付江

西丸御口之者

今井唯四郎

右病氣ニ付小普請入相願候得共小普請入難成、何茂支配無役成候間可被得其意候、尤村松四兵衛可被談候

文政六未年 月 日周防守殿被仰渡候旨、於中御廊下左京殿立合

与左衛門殿申渡

御目付江

御目付支配無役

小林武太夫

銀七枚

学問出精一段之事ニ候、此度吟味之処学術も相応ニ仕候ニ付銀子被下候、猶出精可致候

御小人

甚五郎弟

鳥羽彦四郎

銀五枚

学問出精一段之事ニ候、依之銀子被下候、猶出精可致候
但本文被仰渡之節近藤鯉左衛門世話役真下平四郎致差引候事

文政七申年八月

御小人頭
柿沼吉次郎跡

御中間目付
高橋源之助

右被 仰付旨於燒火之間若年寄衆御出座、駿河守殿被仰渡候

同年九月朔日甚四郎殿御渡

御目付江

西丸御簾奉行
大久保伊勢守組同心
和田吉右衛門

右老衰ニ付何茂支配無役成候間可被得其意、尤西丸御旗奉行江
可被談候

同年 月 日河内守殿被仰渡候

御目付江

寄場元締役
牧田平左衛門
御休息御庭之者
山岸半右衛門

右之者共病氣ニ付何茂支配無役成候間可被得其意候、尤御休息
御庭之者支配・寄場奉行可被談候

同日前同断

御目付江

御留守居番
倉林五郎右衛門組同心
浦部源吾

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御留守居番可
被談候

同年 月 日増山河内守殿被仰渡候段、大草主膳殿立合御手洗五
郎兵衛殿被申渡候

御目付江

御中間
鈴木伝十郎

右御台所番明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持
被下候間其段可被申渡候

同年 月 日玄蕃頭殿被仰渡候段、九郎^(右)左衛門殿立合三左衛門殿
被申渡候

御目付江

御中間
橋本七之助

右御台所番明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持
被下候間其段も可被申渡候

文政十亥年四月十一日遠江守殿被仰渡候段、主膳殿立合帯刀殿被
申渡候

御目付江

御中間
池谷錠之助

右評定所書役当分出役可被申渡候、尤御勘定奉行江可被談候

同年閏六月廿一日若狹守殿被仰渡候

御目付江

西丸切手御門番之頭

吉本与惣左衛門組同心

稲田平一郎

右病氣ニ付何茂支配無役成候間可被得其意候、尤御留守居可被談候

(朱書)
〔文化十二亥年〕

同年七月二日周防守殿被仰渡候段、諸左衛門殿立合忠兵衛殿被申渡候

御目付江

御中間

平島米吉

右諏訪部紋九郎支配御口之者明跡江可被申渡候、尤紋九郎可被談候

文政十一子年六月二日出羽守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿被申渡候

御目付江

御裏御切手番之頭

横山七左衛門組

荒川金八

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御留守居可被談候

(朱書)
〔文化十三子年〕

同年五月十三日老岐守殿被仰渡候段、次郎左衛門殿被申渡候

御目付江

西丸御口之者

今井長左衛門

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候、得其意村松四兵衛可被談候

(朱書)
〔文政十一子年〕

同年十一月九日

御扶持被 召放

御目付支配無役

今井勝右衛門

右勝右衛門儀太田撰津守宅江差出候処、書面之通撰津守申渡候

文政十二丑年七月廿日肥後守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合中務殿被申渡候

御目付江

御目付支配無役

佐野彦一

右持格ニ而御代官井上五郎右衛門手附可被申渡候、尤御勘定奉行可被談候

同年八月九日撰津守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合甚四郎殿被申渡候

金子甚藏

風間新八

飯田与八郎

佐野長七

右御留守居同心明跡へ可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高被下、新人・与八郎・長七儀者並之通御足扶持被下候間其段可被申渡候、尤御留守居江可被談候

同年十月二日撰津守殿被仰渡候段、市左衛門殿被申渡候

御目付江

御台所番

木村鉄三郎

右病氣二付小普請入相願候得共、小普請入難成何茂支配無役二成候間、其段可被申渡候

同年七月八日肥後守殿被仰渡候段、中務殿立合勝次郎殿被申渡候

御目付江

小林武太夫

右御台所番跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高被下候間、其段可被申渡候

同年十月朔日周防守殿被仰渡候段、甚四郎殿被申渡候

御目付江

御留守居

土岐信濃守組同心

皆川万右衛門

右老衰二付何茂支配無役成候間可被得其意候、尤御留守居可被談候

文政十三寅年五月七日河内守殿被仰渡候段、中務殿立合市左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

岡村勇次郎

右学問所下番明跡江可申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡、尤林大学頭・林左京将監江可被談候

同年七月二日

村松四兵衛支配

御口之者

磯部彦五郎

右之者痛所二付元場所江帰番願之通今日内膳正殿被仰渡相濟承附二而返上仕候、右写老通為持差上申候間御落手可被下候、右二付彦五郎儀御引渡申候日限・刻限等相伺度奉存候、以上

七月二日

村松四兵衛

御当番

御目付中

鈴木宇右衛門承之

同年十二月十三日肥後守殿被仰渡候段、主馬殿立合市左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

柴沼五郎吉

同

早野安右衛門

黒楯之者

飯村栄蔵

御掃除之者

常見松五郎

候

右御裏門切手番同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足

高二付、五郎吉・栄蔵・松五郎儀者勤候内並之通御足扶持被下候、

其段可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年五月廿九日肥後守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合十郎左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

萩原助左衛門

黒楯之者

矢沢平次郎

小島弁之助

諸岡金之丞

同年十二月五日大和守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合讚岐守殿被申渡候

御目付江

藤本与吉

右村松四兵衛支配御馬御口之者明跡へ可被申渡、尤四兵衛可被談候

右御留守居同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高被下、平次郎・弁之助・金之丞儀者御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

天保二卯年五月廿二日

御目付江

御留守居

柳沢佐渡守組同心

風間新八郎

同年九月三日相模守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合市左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

鳥貝書之助

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間、可被得其意候

右火消役同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候、尤火消役可被談候

同年

御先手

高力左近組同心

八木田利左衛門

同年十月廿五日河内守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合勝次郎殿被申渡候

御目付江

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御先手可被談

御中間
山本鉄之助

右西丸切手御門番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・
御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

天保三辰年六月五日大和守殿被仰渡候

御目付江

御先手
谷口長右衛門組元同心
並木弥太夫

右何茂支配無役申渡候、尤御先手可被談候

同年十一月廿六日和泉守殿被仰渡候

御目付江

御留守居番
梶川庄兵衛組
八田万之助

右病氣附何茂支配無役成候間可被得其意候、尤御留守居番可被
談候

同年十二月廿九日肥前守殿被仰渡候段、主膳殿立合中務殿被申渡
候

御目付江

御中間
飯塚富次郎
小林忠次郎

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・

御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居番可被談候

天保四巳年六月廿二日内膳正殿被仰渡候段、庄左衛門殿立合式部
殿被申渡候

西丸御目付江

西丸御中間
小野彦太郎

右西丸番御台所小間遣明跡江可被申渡候、尤西丸番御台所頭可
被談候

同年六月廿九日相模守殿被仰渡候段、主膳殿立合播磨守殿被申渡
候

御目付江

御中間
小幡兼三郎

右村松万蔵支配御馬御口之者明跡へ可被申渡候、尤万蔵可被談
候

同年 月 日和泉守殿被仰渡候段、讃岐守殿被申渡候

御目付江

御裏門切手番之頭
山本権十郎組同心
今井清次郎

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御留守居江可
被談候

天保五年八月三日大和守殿被仰渡候段、平四郎殿立合五郎作殿被申渡候

御目付支配無役
松岡銀藏

御扶持人三不似合所業有之趣相聞候二付、御切米御扶持方被召放之

同年九月二日大和守殿被仰渡候段、平四郎殿立合市左衛門殿被申渡候

河内惠三郎
浅井留吉
加藤栄之丞
秋元源之助
三浦八五郎
御掃除之者
鈴木半次郎

右御留守居同心明跡へ可被申渡候、何茂勤候内御足高・御足扶持並之通被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年十月晦日肥後守殿被仰渡候段、小四郎殿立合五郎作殿被申渡候

御目付江

御中間
利右衛門從弟
川目栄藏

右御中間江抱入可被申渡候、勤候内並之通御切米御扶持方被下候間其段も可被申渡候

同年十一月十七日河内守殿被仰渡候段、五郎作殿立合庄左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

望月忠藏

右御先手深津弥七郎組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高被下候間其段可被申渡候、尤御先手可被談候

同年 月 日肥後守殿被仰渡候

御目付江

御口之者
杉本又次郎

右病氣二付何茂支配無役二成候間可被得其意候、尤諏訪部鎌五郎可被談候

天保六未年四月廿一日肥後守殿被仰渡候段、五郎作殿立合平四郎殿被申渡候

御目付江

御中間

高橋栄次郎

右諏訪部鎌五郎支配御口之者明跡江可被申渡候、尤鎌五郎江可被談候

同年七月六日肥後守殿被仰渡候段、数馬殿立合勝次郎殿被申渡候

御目付江

御中間
長崎奉行手附書方出役
畔柳丈之進

右者出役可被差免候、尤長崎奉行可被談候

同年七月十六日肥後守殿被仰渡候段、小四郎殿立合庄左衛門殿被
申渡候

御目付江

御中間
富山貞平

右長崎奉行書方出役可被申渡候、尤長崎奉行可被談候

同年七月肥前守殿被仰渡候段、数馬殿立合庄左衛門殿被申渡候

御目付江

善左衛門三男
鈴木斧吉
柳弥十郎甥
臼井吉太郎
仁兵衛從弟
平山清太郎
久八次男
伊藤鉄太郎
新兵衛弟
金枝仙四郎
八十郎弟
山田源之助
加藤源内甥
渡辺兼三郎
次郎右衛門甥
佐藤幸五郎
与惣右衛門次男

渡辺相吉

平吉弟

小林平太郎

瀬平弟

横川吉太郎

又十郎弟

浅見金三郎

紀平次次男

神谷熊三郎

讚三郎弟

平井寛次郎

利惣次弟

鳥飼鉄四郎

市蔵次男

羽田正之助

次右衛門弟

神尾斧三郎

松五郎弟

朝倉金之助

市右衛門四男

深谷金次郎

右之者共御中間明跡江抱入可被申渡候、勤候内並之通御切米御
扶持方被下候間其段も可被申渡候

同年閏七月肥後守殿被仰渡候段、庄左衛門殿立合勝次郎殿被申渡
候

御目付江

右御留守居同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足
扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

御中間

津岡藤蔵

同年八月十七日相模守殿被仰渡候、左内殿立合小四郎殿被申渡候

御目付江

御中間
鹿島栄蔵

右表小間遣明跡江可被申渡候、尤表御台所頭可被談候

同年十二月十一日河内守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合主馬殿被申渡候

御目付江

御中間
善五郎從弟
靄田丹次郎

右御中間江抱入可被申渡候、勤候内並之通御切米御扶持方被下候間其段も可被申渡候

天保七申年 月 日大和守殿被仰渡候

御目付江

火消役
大久保彦八郎組同心
鳥飼半之丞

右病氣ニ付何茂支配無役成候間可被得其意候、尤火消役被談へ候

同年六月肥後守殿被仰渡候段、修理殿被申渡候

御目付江

御中間

岩瀬松五郎

右小普請方改役下役当分出役可被申渡候、出役中御扶持方三人扶持被下候由其段も可被申渡候、小普請奉行江可被談候

同年七月十三日伯耆守殿被仰渡候段、舍人殿被申渡候

御目付江

御裏門切手番之頭
伴藤五郎組同心
神谷重蔵

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御留守居可被談候

同年十一月肥後守殿被仰渡候

御目付江

御先手
高木内蔵頭組同心
鈴木源次郎

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御先手可被談候

天保八酉年二月肥後守殿被仰渡候段、主馬殿被申渡候

御目付江

小野弥兵衛組
御中間目付
小川佐左衛門
御中間
萩原助三郎

右之者共勤方不宜候ニ付、勤差免何茂支配無役ニ押込可申渡候

同年三月廿三日主膳正殿被仰渡候段、五兵衛殿被申渡候

御目付江

御台所番

鈴木伝十郎

右病氣ニ付小普請相願候処、小普請難成何茂支配無役成候間其段可被申渡候

同年五月朔日河内守殿被仰渡候段、主馬殿立合舍人殿被申渡候

御目付江

御中間

松村二作

右御先手岡部内匠組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段可被申渡候、尤御先手可被談候

同年八月河内守殿被仰渡候段、伊勢守殿立合左内殿被申渡候

御目付江

御中間

加藤源内

御小人

大高鉄之助

右戸田五助組御鷹匠同心明跡江入人成候、何茂勤候内並之通三拾俵式人扶持之積り御足高被下候間其段可被申渡候、尤戸田五助可被談候

同年十二月十三日肥後守殿被仰渡候段、庄左衛門殿立合数馬殿被

申渡候

御目付江

御中間

川村忠之助

黒鍬之者

堀内仙之助

御掃除之者

松井松之助

右御裏門切手番同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内御足高忠之助・松之助儀者御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

天保九戌年三月廿一日河内守殿被仰渡候段、左内殿立合主馬殿被

申渡候

御目付江

御中間

藤村弁三郎

右長崎奉行手附書方出役可被申渡候、尤長崎奉行可被談候

同年三月廿六日大和守殿被仰渡候段、修理殿立合采女殿被申渡候

御中間

山口徳之助

御小人

田中長三郎

黒鍬之者

中村金四郎

右表小間遣明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間可被申渡、尤表御台所頭江可被談候

同年八月 日肥後守殿被仰渡候段、伊勢守殿立合耀藏殿被申渡候

御目付江

御中間

加藤芳之丞

小普請方手代当分出役江

御中間

柳 貞太郎

小普請方改役下役江当分出役

同年十月十六日相模守殿被仰渡候段、采女殿立合修理殿被申渡候

御目付江

小野弥兵衛組

御中間

横田大助

右御細工所同心可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被
下候間其段も可被申渡候、尤も御細工所頭江可被談候

同年十二月十八日肥後守殿被仰渡候段、主水殿被申渡候

御目付江

小野弥兵衛組御中間

評定所書役当分出役

池谷錠之助

右御勘定所書物御用当分出役相勤候様可被申渡候、出役中為御
手当御扶持方三人扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御勘定奉
行可被談候

天保十亥年七月廿四日肥後守殿被仰渡候段、伊勢守殿立合采女殿
被申渡候

御目付江

御中間

木村藏之助

右御裏門切手番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御
足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年九月廿六日玄蕃頭殿被仰渡候段、三藏殿立合主馬殿被申渡候

御目付江

御中間

松坂庄藏

右御宝藏下番明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶
持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年十一月十日大和守殿被仰渡候段、丹宮殿立合三藏殿被申渡候

御目付江

御中間

川口伝五郎

石原本之丞

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・
御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居番可被談候

同年十二月廿八日玄蕃頭殿被仰渡候段、修理殿立合主馬殿被申渡
候

御目付江

御中間

矢村繁太郎

加藤滝平
安藤熊太郎

右御裏門切手番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・
御足扶持被下候間其段可被申渡、尤御留守居江可被談候

天保十一子年四月十九日玄蕃頭殿被仰渡候段、舍人殿被申渡候

御目付

西丸御裏御門番之頭
中根七郎左衛門組同心
小林新三郎

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤西丸御裏門番
之頭江可被談候

同年四月廿一日玄蕃頭殿被仰渡候段、左兵衛殿被申渡候

御目付江

御裏門切手番之頭
伴藤五郎組同心
木村藏之助

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御留守居可被
談候

同年四月廿四日玄蕃頭殿被仰渡候段、舍人殿立合修理殿被申渡候

御目付江

御中間
池谷錠之助

右何茂支配無役世話役明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・

御足扶持被下候間其段も可被申渡候

同年十一月廿一日肥後守殿被仰渡候段、修理殿立合采女殿被申渡
候

御目付江

畔柳丈之進組
御中間

近藤五郎平
柏原忠三郎
古沢次兵衛
御掃除之者
笠原佐十郎
遠藤栄五郎
田中熊次郎
常見貞輔

右御裏門切手番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・
御足扶持被下候間其段可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年十二月廿一日弾正少弼殿被仰渡候段、采女殿立合修理殿被申

渡候

御目付江

御中間
荒川六右衛門
鳥飼伊三郎

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・
御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居番江可被談候

同日御同人被仰渡候段丹宮殿立合、主計頭殿被申渡候

御目付江

御中間

磯部政七

右御天守下番可被申渡候、尤御留守居可被談候

同日前同断

御目付江

内山聞多郎

右御宝蔵下番明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

(粹朱引)

天保十二丑年四月廿五日玄蕃頭殿被仰渡候段、主計頭殿立合修理殿被申渡候

御目付江

御中間頭

木村儀兵衛

右病氣ニ付願之通小普請入候間其段可被申渡候、尤小普請組支配可被談候

同年七月九日豊後守殿被仰渡候段、庄右衛門殿被申渡候

御目付江

諏訪部鎌五郎支配

御口之者

伊藤次助

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤諏訪部鎌五郎江可被談候

同年十一月二日但馬守殿被仰渡候段、立合無之中川勘助殿被申渡候

御目付江

御中間

岩瀬隆之助

右小普請方改役下役明跡江可被申渡候、尤小普請奉行江可被談候

天保十三寅年二月廿三日但馬守殿被仰渡候段、庄右衛門殿立合勘三郎殿被申渡候

御目付江

畔柳丈之進組

御中間

恒川松三郎

右諏訪部鎌五郎支配御口之者明跡江可被申渡候、尤鎌五郎江可被談候

同日摂津守殿被仰渡候段、鐘次郎殿立合忠五郎殿於御宅被申渡候

御中間筋

萩原助三郎

神谷権平

太田清太郎

岡本繁之助

御小人筋

内海芳次郎
田代弥三郎
如何敷筋之趣相聞不埒之儀、依之御切米御扶持方被 召放

同年三月 日

御普請方
畔柳丈之進組
御中間目付
橋本恵次郎
右於焼火之間若年寄衆・御側衆・伊勢守殿被仰渡候段、金之丞殿より御普請奉行へ引渡シ相濟

同日

御中間
勇次郎事
小川恒作

勤方不宜候ニ付何茂支配無役押込被 仰付候

右伊勢守殿被仰渡候段於主計頭殿於御宅ニ四郎殿立合申渡候

同年三月 日主膳正殿被仰渡候段、野間忠五郎殿立合浅野金之丞殿被申渡候

御目付江

牧野金次郎
松本長之助
内田岩次郎

右御裏門切手番同心明跡江可被申渡候、式拾俵式人扶持より内之者者勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

(粹朱引)

同年七月 日撰津守殿被仰渡候段、鐘次郎殿立合主計頭殿被申渡候

御目付江

御小人頭
小笠原貢藏

右長崎奉行組与力可被申渡候、勤候内百俵高二御足高被下持格ニ而可相勤旨可被申渡候、尤長崎奉行可被談候

同年七月十一日但馬守殿被仰渡候段、三五郎殿立合鐘次郎殿被申渡候

御目付江

畔柳丈之進組
御中間
遠宮多助
御小人

御掃除之者
式人
壹人

右寄場下役当分出役助可被申渡候、尤寄場奉行江可被談候

同年七月十三日伊勢守殿被仰渡候段、三藏殿立合金之丞殿被申渡候

御目付江

畔柳丈之進組
御中間目付

矢村斧右衛門
松永半左衛門組

御中間

木村内蔵助

右長崎奉行組同心被申渡べく候、何茂勤候内式拾俵式人扶持之高ニ御足高・御足扶持被下候間其段可被申渡候、尤長崎奉行江可被談候

同年七月 日主膳正殿被仰渡候段、四郎殿立合鐘次郎殿被申渡候

御目付江

御中間

大島茂十郎

右御鉄炮方田付四郎兵衛組同心明跡江可被申渡候、尤田付四郎兵衛可被談候

天保十四卯年正月元日下総守殿被仰渡候

御目付江

西丸切手御門番之頭

石井鎌五郎組同心

岡田新六

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被其意候、尤御留守居可被談候

同年四月伊勢守殿被仰渡候段、真之丞殿立合大内蔵殿被申渡候

御目付江

御中間

風間太市

右御先手野田甲斐守組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御先手可被談候

同年七月 日

場所不相応ニ付御目付支配
無役押込申付候

右之通申渡候間御留守居可被談候

同年九月十四日

御目付江

表小間遣

山口徳之助

右病氣ニ付何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤表御台所頭可被談候

同年九月

御目付江

御中間

遠宮多助

右新潟奉行支配定役可被申渡候、勤候内五拾俵之高ニ御足高被下、役扶持拾人扶持御手当金七兩被下候間其段も可被申渡候、尤新潟奉行江可被談候

同年閏九月主膳正殿被仰渡候段、勘三郎殿立合六郎左衛門殿被申

渡候

御目付江

御中間
横川熊之助
橋本甫太夫

右新瀉奉行並役可被申渡候、勤候内何茂式拾俵式人扶持高ニ御足高・御足扶持被下、役扶持三人扶持御手当金拾壹兩宛被下候間其段も可被申渡候、尤新瀉奉行可被談候

弘化元辰年三月十日但馬守殿被仰渡候段、右近殿被申渡候

御目付江

御金同心
五兵衛実子惣領
神谷鉄三郎

右鉄三郎儀父家督被下何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤御勘定奉行江可被談候

同年四月 日主膳正殿被仰渡候段、右近殿被申渡候

御目付江

御目付支配無役
矢村戸四郎

右来巳年八月迄是迄之通小普請方当分仮役相勤候様可被申渡候、尤小普請奉行可被談候

同年八月廿日

小普請方定小屋御門番人江当分出役
右主膳正殿被仰渡候

萩原又作組御中間
池谷金次郎

弘化二巳年二月四日主膳正殿被仰渡候段、内匠殿於御宅ニ鉄之丞殿立合内匠殿被申渡候

御目付江

御中間
長坂源作

如何之趣茂相聞候ニ付御暇申付候

同年三月五日但馬守殿被仰渡候段、鉄之丞殿被申渡候

御目付江

小普請組
大岡兵庫組
初太郎養子
向山常次郎

右常次郎儀養父家督被下何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤小普請組支配可被談候

同年三月十五日主膳正殿被仰渡候段、鉄之丞殿立合大内蔵殿被申渡候

御目付江

御目付支配無役
小普請方当分仮役
矢村戸四郎

右新瀉奉行支配与力格広間役明跡江可被申渡候、勤候内百俵之高ニ御足高被下、役扶持拾人扶持御手当金七兩被下候間其段も可被申渡候、尤松平河内守・川村清兵衛可被談候

同年四月廿六日安芸守殿被仰渡候段、鉄之丞殿被申渡候

覚

御代官

勝田次郎手附

八百八美子惣領

杉山八百吉

右八百吉儀父家督被下御目付支配無役入可被申渡候事

同年十一月十四日安芸守殿被仰渡候段、鉄之丞殿立合式部少輔殿

被申渡候

御中間

三浦紋兵衛

右医学館俗事取扱候勤向助上下ニ而出役可被申渡候、役金も並之通被下候間其段も可被申渡候、勤方之儀者其方共并多記安良(宛)相談候様可被致候

同年十二月三日主膳正殿被仰渡候段、三五郎殿立合織部殿被申渡

候

御目付江

御中間

小普請方定小屋

門番人当分出役

池谷金次郎

右御用相济候ニ付出役差免候段可被申渡候、尤小普請奉行可被談候

弘化三年三月九日主膳正殿被仰渡候段、清次郎殿立合市右衛門

殿被申渡候

御中間

長崎奉行手附書方出役

富山貞平

右長崎奉行組与力明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高被下候間其段も可被申渡候、尤長崎奉行江可被談候

同年閏五月廿五日

御目付江

浅井七三郎組

御中間組頭

天笠重平

右長崎奉行手附書方出役可被申渡候、尤長崎奉行江可被談候

(梓朱引)

同年六月十八日主膳正殿被仰渡候段、市右衛門殿立合清次郎殿被申渡候

御目付江

御中間頭

萩原又作

右持格ニ而長崎奉行組与力明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高被下候間其段も可被申渡候、尤長崎奉行江可被談候

同年八月廿八日主膳正殿被仰渡候段、織部殿立合清次郎殿被申渡

候

御目付江

御掃除之者頭
又兵衛倅
山崎嘉七

右何茂支配無役世話役明跡江可被申渡候、勤候内式拾俵式人扶持被下候間其段も可被申渡候

同年十一月廿四日

御裏御門番之頭
大沢甚三郎組同心
松本次右衛門

右次右衛門儀病氣ニ付御目付支配無役可申渡候旨、備前守殿被仰渡候段ニ駒木根大内記より達有之候

弘化四未年二月廿五日但馬守殿被仰渡候段、鉄之丞殿立合半左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間
並木又五郎

右御持之頭佐々木近江守組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御持之頭江可被談候

同年三月十四日但馬守殿被仰渡候

御目付江

御中間
伊藤次兵衛

右医学館俗事取扱勤向助上下ニ而出役可被申渡候、役金も並之

通被下候間其段も可被申渡候

同年五月廿八日但馬守殿被仰渡候段、隼之助殿立合半左衛門殿被申渡候

御目付江

御中間
浅井左一郎

右御代官佐々木道太郎手附出役来ル亥年迄相勤候様可被申渡候、尤御勘定奉行可被談候

同年七月朔日伊勢守殿被仰渡候

御目付江

御宝蔵下番
内山新右衛門

右病氣ニ付小普請入相願候得共小普請入難成、何茂支配無役可被申渡候

同年九月十二日但馬守殿被仰渡候段、中務少輔殿立合鉄之丞殿被申渡候

御目付江

御目付支配無役
荒川六右衛門
黒楸之者
三人
黒楸之者筋無役
一人

右御留守居同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・御

足扶持被下候之間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

同年十一月十一日主膳正殿被仰渡候段、中務少輔殿立合市右衛門殿被申渡候

御目付江

御中間

岡本金太

右火消役仙石弥三郎組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足シ扶持被下候間其段も可被申渡候、尤火消役可被談候

同年十一月十五日

御掃除之者頭

福井久七郎跡

御中間目付

松永半六

右被 仰付候旨於燒火之間ニ若年寄中出座、安芸守殿被仰渡候

同年十一月十八日但馬守殿被仰渡候

二丸同心

佐野栄次郎

右病氣ニ付御目付支配無役可被申渡候

同年十二月廿四日主膳正殿被仰渡候段、半左衛門殿立合鉄之丞殿被申渡候

御目付江

御中間

鈴木俊平

右内山七兵衛組猪御犬牽可被申渡候、勤候内式拾俵高二御足高被下候間其段も可被申渡候、尤内山七兵衛可被談候

同年十二月廿七日主膳正殿被仰渡候段、隼之助殿立合仁十郎殿被申渡候

御目付江

御中間

小川久五郎

右御作事方定普請同心出役被申渡へく候、出役中老人扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御作事奉行江可被談候

(朱書)

「弘化五申年三月十五日改元」

嘉永元年申年六月廿一日

御駕籠之者頭

近藤勝太郎跡

御中間

小野鉄兵衛

右被 仰付候旨於燒火之間若年寄中出座、但馬守殿被申渡候

同年六月廿四日主膳正殿被仰渡候

御細工所同心

小川滝右衛門

右病氣ニ付小普請入相願候得共小普請入難成、御目付支配無役可被申渡候

同年十一月十二日越中守殿被仰渡候段、隼之助殿立合甚兵衛殿被申渡候

御目付江

御中間
渡辺友作

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間夕其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

(粹朱引)

嘉永二酉年閏四月六日主膳正殿被仰渡候段、甚左衛門殿立合市右衛門殿申渡

御目付江

御中間頭

荒井林太夫

右西丸御裏門番与力明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高被下候間其段も可被申渡候、尤西丸御裏門番之頭可被談候

同年 月 日

御中間目付見習
八田中五郎

右中五郎儀如何敷筋茂有之趣ニ相聞候ニ付勤差免、御目付支配無役押込可被申渡候

(粹朱引)

同年五月十二日

御中間頭

浅井七三郎跡

同断

荒井林太夫跡

右於焼火之間ニ若年寄中出座、但馬守殿被仰渡候

御小人組頭

外山和太夫

御小人目付見習

喜多野省吾

同年七月四日

御小人頭

志賀長十郎跡

御小人目付

加瀬騎十郎

右被 仰付候旨於焼火之間若年寄衆御出座、越中守殿被仰渡候

同日主膳正殿被仰渡候段、鉄之丞殿立合半左衛門殿被申渡候

御中間

医学館俗事取扱

助出役

伊藤次兵衛

医学館俗事取扱候勤向出役江

御小人

足立鉄平

同断助出役江

右之通可被申渡候、尤役金も並之通被下候間其段も可被申渡候、勤方之儀者其方并多喜安良相談候様可被致候

同年七月八日

御目付支配無役世話役

医学館俗事取扱出役

三浦紋兵衛

右御先手服部五郎左衛門組同心被 仰付、勤候内御足高是迄之通被下候

同年七月十四日主膳正殿被仰渡候段、能登守殿立合市右衛門殿被

申渡候

御目付江

御中間

伊藤次兵衛

右何茂支配無役世話役増人可被申渡候、勤候内御足高・御足扶持並之通り被下候間其段も可被申渡候

鵜吉八之助

右御先手水谷主水組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御先手可被談候

同年八月五日

嘉永三戊年三月五日主膳正殿被仰渡候

御小人頭江

御中間
藤村弁三郎

御目付江

右被 仰付候旨於焼火之間ニ若年寄中侍座、主膳正殿申渡候

御中間
土戸永四郎

同年八月九日

右浦賀奉行組同心江増人可被申渡候、何茂御宛行現米拾石三人扶持被下候間其段可被申渡候、尤浦賀奉行可被談候

西丸御駕籠頭江

御小人
永江次郎右衛門

右前同断

同年三月七日安芸守殿被仰渡候段、十郎兵衛殿立合鉄太郎殿被申渡候

同年九月廿三日安芸守殿被仰渡候段、能登守殿立合市右衛門殿被

御中間
佐野源八

申渡候

御目付江

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守番江^(居脱之)可被談候

御中間
池谷錠太郎

右西丸御台所番明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持共被下候間其段可被申渡候、尤西丸御目付江可被談候

御目付江

同年十一月廿二日越中守殿被仰渡候段、能登守殿立合甚兵衛殿被

御中間目付
相原信吉

申渡候

御目付江

御中間

右大御番頭逸見甲斐守同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤大御番頭江可被談候

嘉永四亥年四月三日

御中間頭

喜多野省吾跡

御中間目付

松永定作

右被 仰付候旨於燒火之間(列九)若年寄中例座、但馬守殿被仰渡候

同年十二月二日主膳正殿被仰渡候段、十郎兵衛殿立合市郎兵衛殿被申渡候

御目付江

御中間

御代官

佐々木道太郎手附出役

浅井左一郎

右御代官佐々木道太郎手附出役、猶又来子年より五ヶ年之間是迄之通相勤候様可被申渡候、尤御勘定奉行江可被談候

同年十二月廿九日但馬守殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合市(郎脱之)兵衛殿被申渡候

御目付江

御中間

小泉要之助

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居番可被談候

嘉永五子年十一月十八日

御中間頭

御目付支配無役世話役

医学館俗事取扱出役

杉野甚平跡

伊藤次兵衛

右被 仰付候旨於燒火之間若年寄中列座、出羽守殿被仰渡候

嘉永六丑年五月七日越中守殿被仰渡候段、十郎兵衛殿立合土佐守殿被申渡候

御目付江

御中間

宇佐美秀一郎

黒鍼之者

橋本武次郎

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、何茂勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居番江可被談候

同年六月六日但馬守殿被仰渡候段、甚左衛門殿立合邦之輔殿被申渡候

御目付江

御中間

大浜左平

右御先手久須美六郎左衛門組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤御先手可被談候

同年十二月九日出羽守殿被仰渡候段、邦之輔殿立合十郎兵衛殿被申渡候

御目付江

御中間

小川仙之助

本島熊太郎

黒鋏之者

高山熊之助

右御留守居同心明跡江可被申渡、仙之助・熊之助儀者並之通御足高・御足扶持被下夕、熊太郎儀者並之通御足高被下候間其段も可被申渡候、尤御留守居可被談候

(朱書)

〔嘉永七寅年十二月五日改元〕

安政元寅年閏七月 日但馬守殿被仰渡候段、新五兵衛殿立合一学殿被申渡候

御目付江

御中間目付

小島源兵衛

右箱館奉行支配調役下役可被申渡候、勤候内三拾俵三人扶持之高ニ御足高・御足扶持被下、役扶持三人扶持・役金三拾五両被下候間其段も可被申渡候、尤箱館奉行江可被談候

安政二卯年二月十日但馬守殿被仰渡候段、九郎兵衛殿立合金四郎殿被申渡候

御目付江

御中間

鈴木兵次郎

指田収次

黒鋏之者

四人

御掃除之者

老 人

右下田奉行手附〔出役〕可被申渡候、尤下田奉行江可被談候

(朱書)

同年十一月十一日但馬守殿被仰渡候段、駿河守殿立合邦之輔殿被申渡候

御目付

御中間

下田奉行手附出役

指田収次

鈴木兵次郎

黒鋏之者

三人

右下田奉行組同心可被申渡候、何茂勤候内式拾俵式人扶持之高ニ御足高・御足扶持被下、御手当金五両充被下候間其段も可被申渡候、尤下田奉行江可被談候

同年十二月廿二日丹波守殿被仰渡候段、駿河守殿立合邦之輔殿被申渡候

御目付江

御中間

山本金八

右御留守居番同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段茂可被申渡候、尤御留守居番江可被談候

同年十二月廿五日但馬守殿被仰渡候段、半三郎殿立合右近将監殿被申渡候

御目付江

御中間
渡辺小綱太

右学問所下番可被申渡候、勤候内並之通御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤林大学頭・林凶書之助(門)可被談候

安政三辰年正月十六日

御中間頭江

御台所番
矢村斧右衛門

御小人頭江

御中間目付
高橋捨次郎

右於焼火之間若年寄衆御列座、安芸守殿被仰渡候

同年二月朔日 殿被仰渡候段、久之丞殿立合右近将監殿被申渡候

御目付江

御小人目付
須藤忠四郎
鈴木一平

役儀不相当之筋茂有之候ニ付勤差免、何茂支配無役押込被申付候

同年五月廿二日安芸守殿被仰渡候

御目付江

下田奉行組同心
指田収次

右御目付支配無役申渡候、尤下田奉行江可被談候

(粹朱引)

同年六月晦日

御中間頭
外山和太夫
願之通小普請入被 仰付候旨右京亮殿被仰渡候段、三左衛門殿立合半三郎殿被申渡候

同年十二月廿七日丹波守殿被仰渡候段、四郎左衛門殿立合左京殿被申渡候

御目付江

御中間頭(門脱)
矢村斧右衛組

御代官
佐々木道太郎
手附出役
浅井左一郎

御代官佐々木道太郎手附出役猶又来巳年より五ヶ年之間、是迄之通相勤候様可被申渡候、尤御勘定奉行江可被談候

安政四巳年五月朔日丹波守殿被仰渡候段、半三郎殿立合玄蕃頭殿被申渡候

御目付江

御中間
福田糸五郎
黒楯之者
三浦武次郎

右御金蔵番同心明跡江可被申渡候、尤御勘定奉行江可被談候

同年六月十九日越中守殿被仰渡候段、左京殿立合半三郎殿被申渡候

御目付江

御中間

川口柳之助

右箱館奉行組同心明跡江可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持并御役金被下候間其段も可被申渡候、尤箱館奉行江可被談候

同年八月十二日

学問所下番

渡辺小綱太

右小綱太儀無役入被 仰付候旨但馬守殿被仰渡候段、伝七郎殿被申渡候

安政五年四月十一日但馬守殿被仰渡候段、伯耆守殿立合鉦藏殿被申渡候

御目付江

御中間

桜井甚五右衛門

右御代官森孫三郎手附出役来ル戊年迄相勤候様可被申渡候、尤御勘定奉行江可被談候

同年五月十九日但馬守殿被仰渡候段、津田半三郎殿立合黒川左仲殿被申渡候

御目付江

御中間

三浦銚之助

右長崎奉行江戸御役所書物御用出役可被申渡候、尤長崎奉行江可被談候

同年六月五日但馬守殿被仰渡候段、伝七郎殿立合伯耆守殿被申渡候

御目付江

御中間

松岡猪十郎

片桐辰之進

右下田奉行組同心可被申渡候、何茂勤候内式拾俵式人扶持之高ニ御足高・御足扶持被下、御手当金五両充被下候間其段も可被申渡候、尤下田奉行江可被談候

同年十二月廿七日越中守殿被仰渡候段、金三郎殿被申渡候

御目付江

学問所下番

勇次郎実子惣領

岡村勇吉

右勇吉儀父家督被下置、何茂支配無役ニ成候間可被得其意候、尤林大学頭・林凶書助・林民部江可被談候

御目付江

御中間

富岡光藏

右神奈川奉行支配定役並出役可被申渡候、尤神奈川奉行可被談

候

右万延元申年十二月十三日被仰渡候段、山口勘兵衛殿立合大草主膳殿被申渡候

御目付江

御中間

御代官

森孫三郎手附出役

桜井甚五右衛門

右講武所下番可被申渡候、勤候内並之通御足高・御足扶持被下候間其段も可被申渡候、尤講武所奉行可被談候

(朱書)

「但同时ニ黒鍬・御掃除之者江下番被 仰付候得共書留略之」

右万延元申年七月廿四日但馬守殿被仰渡候段、揖斐与右衛門殿立合有馬帯刀殿被申渡候

御目付江

御中間

神奈川奉行支配

定役並出役

富岡光藏

神奈川奉行支配定役並申渡、勤候内並之通御足高・御足扶持被下、役金も被下之

(朱書)

「但同时ニ御中間・御小人・黒鍬・御掃除之者江同心并上番等被

仰付候得共書留略之」

右文久二戌年二月八日遠山信濃守殿被仰渡候段、藤沢九太夫殿立合滝川主殿殿被申渡候

(朱書)

「五百四」

※「文化九申年」九月廿五日 「※」「印は卷末参照」

御中間目付

岩崎半五郎跡

浅岡平八郎組御中間

野方御使之者

石原助三郎

右備前守殿被仰渡候段、助兵衛殿立合源八郎殿被申渡候

※「同年」九月廿六日壱通御月番久藏殿差出

御中間目付誓詞願

覚

浅岡平八郎組

御中間目付

石原助三郎

右助三郎儀此度御中間目付被 仰付候ニ付、御席之節誓詞被仰付被下シ置候様奉願候、以上

申九月

御中間頭

浅岡平八郎

※「文化十四年」十二月三日

御中間目付

長瀬清右衛門跡

鈴木半十郎組御中間

野方御使之者

岩藤龜三郎

右立花出雲守殿被仰渡候段、羽太庄左衛門殿立合松平伊織殿被申渡候

※「文化十一戌年」十一月八日

御中間目付

森田安藏跡

鈴木半十郎組

書役之者

長瀬平五郎

右堀田撰津守殿被仰渡候段、佐野宇右衛門殿立合土屋帯刀殿被
申渡候

※「文化十二亥年」五月六日 「※」「印は卷末参照」

御中間目付
鈴木半十郎組御中間
昼番より御用除之者
深谷宇源太跡
小野小三郎
右兵部少輔殿被仰渡候段、黒川与市殿立合仙石次兵衛殿被申渡
候

※「文化十三子年」四月廿日

御中間目付
同人組御中間
昼番より御用除之者
橋本金次郎跡
高橋源之助
右備中守殿被仰渡候段、伊織殿立合次兵衛殿被申渡候

※「同年」五月朔日

御中間目付
同人組御中間
野方御使之者
三橋軍次郎跡
小磯勝五郎
右備中守殿被仰渡候段、次左衛門殿立合宇右衛門殿被申渡候

※「文政元寅年」三月十七日

御中間目付
同人組御中間
野方御使之者
宇佐美仁左衛門跡
関根与作
右兵部少輔殿被仰渡候段、中務殿立合周防守殿被申渡候

※「文政二卯年」三月十八日

御中間目付
同人組御中間
野方御使之者
松永善之丞跡
神尾喜三郎
右出羽守殿被仰渡候段、中務殿立合次兵衛殿被申渡候

※「文政三辰年」十一月十四日

西丸御中間目付
同人組御中間
野方御使之者
川野弥五郎跡
三浦七蔵
右近江守殿被仰渡候段、丹下殿被申渡候

※「文政四巳年」九月廿三日

西丸御中間目付
鈴木半十郎組御中間
西丸野方御使之者
加藤又三郎跡
三浦欽助
右老岐守殿被仰渡候段、勘ヶ由殿立合猪右衛門殿被申渡候

※「文政六未年」八月十日

御中間目付
野方御使之者
藤村甫助
向田政兵衛跡
右駿河守殿被仰渡候段、^(彈正少弼之)彈正殿立合丹下殿被申渡候

同年 月 日

御中間目付
同人組御中間
野方御使之者
小磯清九郎跡
小川大六郎
右

文政六未年

覚

古沢茂右衛門組

御中間目付

天笠重平

右病氣ニ付跡役御撰ニ付、同人倅天笠竜助初筆外八人名面三月廿七日月番弥八郎殿江差出候上ニ而、右重平数年出精相勤候間倅竜助跡役被 仰付候様、与左衛門殿江茂右衛門より申立候処、御撰無之竜助書出候様被仰聞、則重平倅天笠竜助可申渡旨、未四月廿六日周防守殿被仰渡候段、作右衛門殿立合左京殿被申渡候間、以来為見合留置候事

同年十月八日

鈴木宇右衛門組御中間

野方御使之者

三橋捨三郎

御中間目付
高橋源之助跡

右堀田撰津守殿被仰渡候段、五郎兵衛殿立合甚四郎殿被申渡候

同年十一月廿九日

同人組御中間

西丸野方御使之者

増田熊蔵

西丸御中間目付
近藤五郎平跡

右内膳正殿被仰渡候段、五郎兵衛殿立合善兵衛殿被申渡候

文政七申年二月七日

鈴木宇右衛門組御中間

野方御使之者

御中間目付

川村市兵衛跡

荒井為三郎

右増山河内守殿被仰渡候段、九郎右衛門殿立合作右衛門殿被申渡候

同年八月四日

同人組御中間

野方御使之者

山本猪三郎

御中間目付
橋本佐次郎跡

右撰津守殿被仰渡候段、三左衛門殿立合左京殿被申渡候

文政八酉年四月朔日

同人組御中間

書役之者

山崎馬之助

御中間目付
小林新五郎跡

右玄蕃頭殿被仰渡候段、五郎兵衛殿立合市左衛門殿被申渡候

同年四月十三日

同人組御中間

西丸野方御使之者

高田藤五郎

西丸御中間目付
増田熊蔵跡

右老岐守殿被仰渡候段、五郎作殿立合小兵衛殿被申渡候

同年七月廿四日

同人組御中間

昼番御用除之者

川村仁三郎

御中間目付
神尾次右衛門跡

右撰津守殿被仰渡候段、左京殿立合三左衛門殿被申渡候

※「同年」九月十四日 「※」印は卷末参照

御中間目付

篠崎富五郎跡

右駿河守殿被仰渡候段、猪右衛門殿立合監物殿被申渡候

末次佐吉組御中間

昼番御用除之者

小岩井左源次

※「同年」十二月廿日

御中間目付

羽田市藏跡

右周防守殿被仰渡候段、助右衛門殿立合伝右衛門殿被申渡候

末次佐吉組御中間

野方御使之者

橋本佐次郎

※「文政九戌年」四月十六日

御中間目付

永田平三郎跡

右周防守殿被仰渡候段、助右衛門殿立合三太夫殿被申渡候

同人組御中間

昼番御用除之者

永田平太郎

※「文政十亥年」二月廿二日

西丸御中間目付

増田米吉跡

右左兵衛佐殿被仰渡候段、与左衛門殿立合次郎右衛門殿被申渡候

末次佐吉組御中間

西丸奥表仕切土戸番

近藤伝之丞

候

同年八月十二日

御中間目付

清水吾八跡

右肥後守殿被仰渡候段、左京殿立合甚四郎殿被申渡候

鈴木宇右衛門組

昼番御用除之者

岩堀孫十郎

※「同年」十月四日

御中間目付

古沢半右衛門跡

右駿河守殿被仰渡候段、三郎右衛門殿立合忠兵衛殿被申渡候

同人組御中間

昼番御用除之者

川村市兵衛

同年八月廿九日

御中間目付

川村吉三郎跡

右肥後守殿被仰渡候段、土佐守殿立合左京殿被申渡候

同人組御中間

昼番御用除之者

山崎孫三郎

文政十一子年三月廿四日

西丸御中間目付

三浦藤太夫跡

右老岐守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合五郎作殿被申渡候

鈴木宇右衛門組御中間

触番世話役之者

大浜亀八

同年九月十九日

西丸御中間目付

柴田重右衛門跡

同人組御中間

西丸野方御使之者

小磯兵藏

同年四月八日

御中間目付

矢村繁八郎跡

右河内守殿被仰渡候段、帶刀殿立合伊賀守殿被申渡候

鈴木宇右衛門組御中間

野方御使之者

河野善太夫

※「同年」⁽²⁾ 閏八月廿七日 「※」印は卷末参照

御中間目付

神谷兵太夫跡

右近江守殿被仰渡候段、佐次右衛門殿立合常次郎殿被申渡候

神谷兵太夫組御中間

昼番御用除之者

松永林平

※「文政十二丑年」⁽²⁾ 閏四月廿九日

御中間目付

石原四郎次跡

右駿河守殿被仰渡候段、与左衛門殿立合隼人正殿被申渡候

同人組御中間

野方御使之者

川村吉三郎

※「同年」九月十五日

御中間目付

小磯清九郎跡

右小笠原近江守殿被仰渡候段、常次郎殿立合隼人正殿被申渡候

同人組御中間

昼番御用除之者

羽田市藏

文政十一子年十月七日

御中間目付

鈴木宇右衛門組

野方御使之者

小野藤右衛門跡

右 上総介殿被仰渡候段、九郎右衛門殿立合伊賀守殿被仰渡候

神尾記太郎

天保元寅年閏三月十三日

御中間目付

下山伝吉跡

右肥後守殿被仰渡候段、豊後守殿立合甚四郎殿被申渡候

同人組御中間

昼番御用除之者

矢村吉藏

※「天保三辰年」四月十日

御中間目付

古沢常吉跡

右撰津守殿被仰渡候段、源六郎殿立合三右衛門殿被申渡候

神谷兵太夫組御中間

昼番御用除之者

荒井林之助

※「同年」五月七日

御中間目付

佐藤常三郎跡

右紀伊守殿被仰渡候段、左京殿立合市左衛門殿被申渡候

同人組御中間

野方御使之者

桜井泰藏

同年十一月十九日

覚

御中間頭

山崎又兵衛組

西丸当番所出役

川目平五郎

同

鈴木宇右衛門組

西丸御用所勤
武藤栄蔵
御小人頭

杉山人之助組
西丸御用所勤

豊田勇之助
同人組

西丸御使之者
小塩奎之助

右者此度西丸御中間目付・御小人目付見習勤可申渡旨、内膳正
殿江申シ上置候段五六左衛門殿被申渡候

天保五年十一月朔日

御中間目付
三橋軍次郎跡

御中間目付

岩堀弥十郎跡

右式廉肥後守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合市左衛門殿被申渡候

鈴木宇右衛門組

昼番御用除之者

安藤彦助

同人組御中間

昼番御用除之者

橋本恵次郎

天保六未年二月

西丸御中間目付
荒井利兵衛跡

右豊後守殿被仰渡候段、伊賀守殿立合助之丞殿被申渡候

小野弥兵衛組

西丸御中間目付見習

武藤金五郎

同年九月廿五日

同人組御中間

御中間目付
矢村吉蔵跡

御中間目付

小林八兵衛跡

右相模守殿被仰渡候段、主馬殿立合五郎作殿被申渡候

同年十二月廿四日

西丸御中間目付見習
宇佐美幸之丞跡

右野々山彈右衛門殿立合松平助之丞殿被申渡候

野方御使之者
矢村斧太郎
同人組御中間

昼番御用除之者
河野貫三郎

小野弥兵衛組御中間
西丸野方御使之者
安藤関三郎

天保八酉年四月廿日

御中間目付
小川佐左衛門跡

右河内守殿被仰渡候段、舍人殿立合伊勢守殿被申渡候

同人組御中間

野方御使之者

藤村伝十郎

同年十一月廿日

御中間目付
安藤彦助跡

右相模守殿被仰渡候段、修理殿立合舍人殿被申渡候

同人組御中間

野方御使之者

小野藤之丞

覚

御中間目付

小岩井左源次跡

右大和守殿被仰渡候段、数馬殿立合庄右衛門殿被申渡候

小野弥兵衛組御中間

昼番御用除之者

岩藤兼次郎

但末年十月晦日留落ニ付爰ニ載す

天保九戌年十二月八日

御中間目付

川野善太夫跡

右相模守殿被仰渡候段、采女殿立合主水殿被申渡候

天保十亥年十二月三日

御中間目付

長瀬平五郎跡

右玄蕃頭殿被仰渡候段、三藏殿立合耀藏殿被申渡候

同年十二月晦日

御中間目付見習

右大沢主馬殿被申渡候

天保十一子年五月七日

御中間目付

神尾次右衛門跡

右豊後守殿被仰渡候段、修理殿立合采女殿被申渡候

天保十二丑年閏正月廿九日伺之通可申渡旨玄蕃頭殿被仰渡候段、

立合無之采女殿被申渡候

覚

御中間頭

畔柳丈之進組

御中間目付

藤村甫助

丑七拾三歳

右甫助儀天明六年十二月養父跡式被下置御中間相勤、文化八

末年八月御中間目付被 仰付江戸遠国御用度々相勤、当丑年迄

都合五拾六年相勤罷在候

同断

同人組

甫助倅

昼番御用除之者

藤村太一郎

丑三拾五歳

文政七申年十二月從部屋住御中間明跡江御抱入被 仰付、同

十三寅年七月昼番御用除之者申度、都合拾八年相勤罷在候

右甫助儀病氣附御中間目付相勤不申候ニ付差免申度奉存候、然

ル処(マ)口甫助儀年来御用多之御場所無懈怠出精相勤、殊ニ五拾六

年無滞皆勤仕、此度御撰之廉ニ而者御座候得共組之者一同励ニ茂

相成候ニ付、倅太一郎儀跡役被 仰付被下置候様仕度奉存候、依

之此段申上候、以上

御中間頭

畔柳丈之進

丑閏正月

同年

畔柳丈之進組御中間

御中間目付
金田政十郎跡
右熊太郎儀常々出精相勤御用立候者ニ付、跡役被 仰付被下置
候様仕度奉伺候、以上

丑十二月

御中間頭
畔柳丈之進

天保十三寅年四月四日

御中間目付
黒沢昇一郎跡
右伊勢守殿被仰渡候段、^(鐘力)鉄次郎殿立合庄右衛門殿被申渡候

同日

御小人目付
川島弥四郎跡△
右前同断
御中間押
川村清三郎
同人組

△ 札ケ下
本文御小人目付之儀、御中間目付荒井林之助大奥裏締戸
番被 仰付候ニ付右明跡其節御中間より可奉伺処、御小
人頭柳田勝太郎組御小人志賀長十郎被 仰付候間、此度
勝太郎組御小人目付川島弥四郎明跡へ御中間より被 仰
付被下候ハ、御定人数ニ相成申候、尤御小人頭より右明
跡差戻可申旨申聞候

同日

御中間目付
寺山源六郎跡
右前同断
同人組御中間
野方御使之者
高橋捨次郎

同年六月十四日

御中間目付
橋本恵次郎跡
右式廉主膳正殿被仰渡候段、^(鐘力)鉄次郎殿被申渡候

同年十一月廿一日

御中間目付
矢村斧右衛門跡
右安芸守殿被仰渡候段、主計頭殿立合庄兵衛殿被申渡候

同年

御中間目付
伊藤晴作跡
右
同人組御中間
書役之者
芦名元右衛門

同年十二月廿八日

西丸御中間目付

同人組
西丸御中間目付見習

武藤金五郎跡

水野九郎兵衛

右本多越中守殿被仰渡候段、西丸御目付永井真之丞殿立合服部
一郎右衛門殿被申渡候

同日

御中間目付
三橋桂三郎跡

羽田善作

天保十四卯年 月 日

御中間目付

藤村伝十郎跡

同人組御中間
昼番御用除之者
三橋桂三郎

弘化二巳年四月十三日

西丸御中間目付

安藤左太夫跡

萩原又作組

西丸御中間目付見習

矢村貞助

右

右

同年

御中間目付

関根与作跡

同人組御中間
昼番御用除之者
荒井伝三郎

同年九月十三日

御中間目付

小野藤之丞跡

同人組

御中間目付見習

三橋啓五郎

右

右主膳正殿被仰渡候段、内匠殿立合式部少輔殿被申渡候

同年

西丸御中間目付

高田藤五郎跡

同人組
西丸御中間目付
安藤左太夫

弘化三年十月十六日

西丸御中間目付

小磯清九郎跡

杉野甚平組

西丸御中間目付見習

石掛清五郎

右

右右京亮殿被仰渡候段、上野介殿立合真之丞殿被申渡候

同年

西丸御中間目付

水野九郎兵衛跡

同人組
西丸御中間目付見習
宇佐美喜三郎

嘉永元申年十二月十五日

御中間目付

桜井源藏跡

同人組

御中間目付見習

永田林太郎

右

右越中守殿被仰渡候段、甚左衛門殿立合市右衛門殿被申渡候

嘉永二酉年八月十七日

西丸御中間目付
荒井平藏跡

右玄蕃頭殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合内蔵頭殿被申渡候

同人組

西丸御中間目付
水野九郎兵衛

嘉永三戌年四月

御中間目付
桜井甚五右衛門跡

右主膳正殿被仰渡候段、鉄太郎殿立合市右衛門殿被申渡候

同人組

御中間目付見習
吉田長次郎

同年八月廿三日

西丸御中間目付
宇佐美彦四郎跡

右玄蕃頭殿被仰渡候段、一学殿被申渡候

杉野甚平組御中間

西丸野方御使之者
岡部豊太郎

嘉永四亥年三月廿三日

同人組御中間
野方御使之者
小沢勢十郎

同人組御中間
御用除昼番之者

稲田七郎左衛門

同人組御中間

御用除昼番之者

山崎政八郎

同人組御中間

右御中間目付見習勤可申渡旨市右衛門殿被仰渡候

昼番御用方
和田金蔵

嘉永五子年 月 日

御中間目付
小川健吉跡

右

覚

御中間目付

山本猪三郎跡

右安芸守殿被仰渡候段、十郎兵衛殿立合市郎兵衛殿被申渡候

但去戌九月十日書落ニ付爰ニ載ス

嘉永六丑年正月

御中間目付見習
中村猪之助跡

右御目付松平十郎兵衛殿被申渡候

同人組御中間

触番之者
大原道蔵

同年御扣共式通 月 日御月番 殿江差出

御中間目付明切之儀申上候書付

覚

伊藤次兵衛組

御中間目付

杉浦五郎右衛門

右五郎右衛門儀病氣附役儀相勤不申候ニ付差免平役申渡可仕候、尤私組江西丸より打込勤之者五人御座候間、定人数ニ相成候迄者別段跡役之儀不申上明キ切之積り相心得可申候、依之申上置候、以上

丑十一月

御中間頭
伊藤次兵衛

安政元寅年 月 日御扣共三通 殿江差出

御中間目付明切之儀申上候書付

月番 松平十郎兵衛
遠山金四郎

覚

伊藤次兵衛組

御中間目付

永田忠左衛門

右忠左衛門儀病氣附役儀相勤不申候ニ付差免平役申渡可仕候、尤私組江西丸より打込勤之者御座候間、定人数ニ相成候迄者別段跡役之儀不申上明キ切之積り相心得^可不申候、依之申上置候、以上

寅十一月 日

御中間頭
伊藤次兵衛

同年 月 日御扣共三通 殿差出

御中間目付明切之儀申上候書付

覚

伊藤次兵衛組

御中間目付

池田金助

右金助儀病氣附役儀相勤不申候ニ付差免平役申渡可仕候、尤私組江西丸より打込勤之者御座候間、定人数ニ相成候迄別段跡役之儀不申上明切之積り相心得可申候、依之申上置候、以上

寅十一月

御中間頭
伊藤次兵衛

同年十二月十四日御扣共三通御月番新五兵衛殿江差出

御持鑓之者明切之儀申上候書付

月番 青木新五兵衛
一色邦之輔

覚

伊藤次兵衛組

御中間

浅見久太郎

右久太郎儀病氣附役儀相勤不申候ニ付差免平役申渡可仕候、尤私組江西丸より打込勤之者御座候間、定人数ニ相成候迄別段跡役之儀不申上明切之積り相心得可申候、依之申上置候、以上

寅十二月

御中間頭
伊藤次兵衛

安政二卯年 月 日御扣共三通

御中間目付明切之儀申上候書付

月番 遠山金四郎
浅野一学

覚

伊藤次兵衛組

御中間目付

羽田六蔵

右六蔵儀病氣附役儀相勤不申候ニ付差免平役申渡可仕候、尤私組江西丸より打込勤之者御座候間、定人数ニ相成候迄者別段跡役

之儀不申上明切之積相心得可申候、依之申上置候、以上

卯二月

御中間頭

伊藤次兵衛

同年二月御扣共三通り差出

御中間目付見習勤明切申上候書付

月番

覚

矢村斧右衛門組

御中間目付見習

山崎政八郎

同年 月 日御扣共三通

御持鐘之者明切之儀申上候書付

覚

伊藤次兵衛組

御中間

鹿島権十郎

右政八郎儀病氣附御中間目付見習相勤不申候ニ付差免候様可仕候、尤私組定人数相増居候間、明切之積り相心得申候、依之申上置候、以上

辰二月

御中間頭

矢村斧右衛門

右権十郎儀御持鐘之者相勤不申候ニ付差免平役申渡候、尤私組江西丸より打込勤之者御座候間、定人数ニ相成候迄者別段跡役之儀不申上明キ切之積相心得可申候、依之申上置候、以上

卯八月

御中間頭

伊藤次兵衛

同日

西丸御中間目付明切之儀申上候書付

覚

同人組

西丸御中間目付

藤村栄太郎

安政三辰年正月廿二日御扣共三通右近将監殿江差出

御中間目付明切之儀申上候書付

月番

大久保右近将監
松平久之丞

覚

御中間目付

高橋捨次郎

右栄太郎儀病氣附役儀相勤不申候ニ付差免可仕候、尤当時人数相増居候趣に付、別段跡役之儀不申上明切之積相心得可申候、依之申上置候、以上

辰二月

御中間頭

矢村斧右衛門

右捨次郎儀去ル十六日御小人頭被 仰付候処、私組江西丸より打込勤之者御座候間、定人数ニ相成候迄者別段跡役之儀不申上明切之積相心得可申候、依之申上置候、以上

辰正月

御中間頭

矢村斧右衛門

同年三月御扣共三通り

御中間跡番明切之儀申上候書付

月番

松平久之丞
津田半三郎

覚

大奥御台所口前御門番

(マ)

右金三郎儀此度御旗指之者申渡候、然ル処先達而西丸御広敷御
長屋御門番より打込勤ニ被 仰付、定人数相増居候ニ付跡番之
儀不申上、明切之積り相心得可申候、此段申上置候、以上

辰三月

御中間頭

矢村斧右衛門

矢村斧右衛門組

御中間

村川助三郎

同断
荒井為三郎跡

同人組

当番所書役助

神尾次三郎

同断

吉田新五郎跡

同人組

竹中半之助

同断

平島市之助跡

同人組御中間

昼番御用除之者

三浦竜次郎

同断

岩藤藤右衛門跡

同人組

書役之者
井上新太郎

同年六月廿六日

矢村斧右衛門組

御中間目付見習

御中間目付
藤村太一郎跡

同断
大原道藏

同断

小川佐左衛門

安政五年四月十六日

矢村斧右衛門組

御中間目付見習

御中間目付
小川佐左衛門跡

竹中藤十郎

同断

山崎市十郎跡

同人組

三橋嘉兵衛

同断
三橋啓五郎跡
右酒井右京亮殿被仰渡候段、木村勘助殿立合松平久之丞殿被申
渡候

同断
山崎友太郎跡

同人組

昼番御用除之者

柴田庄三郎

同年十二月廿八日

矢村斧右衛門組

御中間目付見習

御中間目付
荒井為三郎跡

同断
山崎友太郎

同日

御中間目付見習

竹中藤十郎跡

同人組

野方御使之者

橋本五四郎

同断
稲田七郎左衛門跡

同人組御中間
野方御使之者
小川幸吉

同断
三橋嘉兵衛跡

同人組
書役之者
石原良蔵

右鉦藏殿立合四郎左衛門殿被申渡候

安政六未年二月三日

右御中間目付見習勤被 仰付旨、都筑金三郎殿被申渡候

矢村斧右衛門組
昼番御用除之者
朝倉松之助

同年六月二日

御中間目付
竹中半之助跡
右越中守殿被仰渡候段、權之助殿立合帯刀殿被申渡候

金田豊三郎組
御中間目付見習
橋本五四郎

同年六月廿九日

右御中間目付見習被仰付候旨、松平次郎兵衛殿被申渡候

金田豊三郎組
昼番御用除之者
深谷幸蔵

万延元申年九月六日

御中間目付
永田林太郎跡
同断
津岡豊之助跡

高橋金之助組
御中間目付見習
石原良蔵
同人組
同断
深谷幸蔵

右式廉遠江守殿被仰渡候段、式部殿立合三郎四郎殿被申渡候

同年九月八日

御中間目付見習

同断

右駒井山城守殿被申渡候事

同人組
昼番御用除之者
小林徳十郎
同人組
同断
山本惣十郎

同年十二月廿四日

御中間目付見習
右可申渡旨神保伯耆守殿被申渡候

同人組
同断
山崎正助

文久元酉年二月十三日

西丸御中間目付見習
右可申渡旨揖斐与右衛門殿被申渡候

同人組
西丸奥表仕切土戸番
桜井謹二郎

同年十二月四日

御中間目付見習
右可申渡旨松平備後守殿被申渡候

同人組
昼番御用除之者
黒沢勇次郎
藤村賢一郎

〔朱書〕
「五百五」

文政三辰年九月廿六日

鈴木千右衛門組

御抱入之者

佐太郎倅

小幡新三郎跡

小宮山大助

右撰津守殿被仰渡候段、四郎兵衛殿立合市左衛門殿被申渡候

同年十二月十五日

同人組

同断

岩崎金八跡

市三郎倅

野口市次郎

右撰津守殿被仰渡候段、立合無之作右衛門殿被申渡候

文政四巳年四月十六日

同人組

同断

本島紀八跡

紀三郎倅

神尾紀太郎

右駿河守殿被仰渡候段、左京殿立合忠兵衛殿被申渡候

同年七月十九日

同人組

同断

岩瀬理兵衛跡

理兵衛從弟

恒川斧次郎

右撰津守殿被仰渡候段、作右衛門殿立合四郎兵衛殿被申渡候

同年八月廿日

御抱入之者
横川瀬平跡

鈴木千右衛門組

彦兵衛倅

船川多四郎

右紀伊守殿被仰渡候段、作右衛門殿立合弥八郎殿被申渡候

同年十一月廿六日

同人組

同断

山本稻次郎跡

覺之助倅

荒井龜吉

右駿河守殿被仰渡候段、主膳殿立合与左衛門殿被申渡候

同年八月朔日

小林五兵衛組

同断

鶴吉善藏跡

一作倅

小野忠藏

右駿河守殿被仰渡候段、忠兵衛殿立合主膳殿被申渡候

同年十二月六日

同人組

同断

秋本銀次郎跡

銀次郎弟

秋本鍋吉

右撰津守殿被仰渡候段、源六郎殿立合市左衛門殿被申渡候

同年十二月十八日

同人組

同断

平島勝之丞跡

勝之丞從弟違

平島龜三郎

同断

同人組

平五郎倅

池田源四郎跡

長瀬平太郎

「御抱入之者」

十三郎倅

同断

同人組
市兵衛倅

小川熊次郎跡

加藤吉太郎

浅井熊五郎跡

川村惣左衛門

右河内守殿被仰渡候段、三左衛門殿立合作右衛門殿被申渡候

同断

同人組
市右衛門倅

文政六未年八月十四日

忠見源八郎跡

深谷与十郎

同断

同人組

右四廉撰津守殿被仰渡候段、与左衛門殿立合忠兵衛殿被申渡候

木村条次郎跡

又六倅
山崎鉄五郎

文政五年七月十三日

鈴木千右衛門組

右駿河守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合弥八郎殿被申渡候

御抱入之者

平蔵倅

同年十一月廿一日

宇佐美雄作跡

荒井吉五郎

鈴木宇右衛門組

右撰津守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合作右衛門殿被申渡候

同断
松坂鉄之助跡

鉄之助從弟
沼田豊次郎

同年八月十五日

同人組

同年十二月廿四日

同断
鹿島松四郎跡

松四郎從弟
鹿島権右衛門

右紀伊守殿被仰渡候段、五郎兵衛殿立合主膳殿被申渡候

同断
真壁繁太郎跡

同人組
佐源次倅

右周防守殿被仰渡候段、三左衛門殿立合土佐守殿被申渡候

同年九月朔日

新規

同人組

文政七申年五月十九日

同断
高橋藤八跡

藤八弟
高橋鉄吉

右撰津守殿被仰渡候段、与左衛門殿立合市左衛門殿被申渡候

同断
三浦泰助跡

同人組
軍平倅

右撰津守殿被仰渡候段、伊賀守殿立合五郎兵衛殿被申渡候

同年十一月晦日

(朱書)

同人組

同年閏八月二日

御抱入之者
川村市兵衛跡

同断
永井松之助跡

右式廉撰津守殿被仰渡候段、主膳殿立合九郎右衛門殿被申渡候

同日

同断
高橋鉄吉跡
右前同断

同年十二月廿七日

同断
佐久間金平跡

右撰津守殿被仰渡候段、三左衛門殿立合左京殿被申渡候

文政八酉年三月廿六日

同断
吉沢甚吉跡

同断
山本大次郎跡

右式廉河内守殿被仰渡候段、作右衛門殿立合九郎右衛門殿被申渡候

鈴木宇右衛門組
五四郎倅

橋本作三郎

同断
五郎吉倅
中島為之助

同人組

鉄吉從弟
高橋友次郎

同人組

甫助倅
藤村太郎吉

同人組

藤九郎倅
遠宮幸内

同人組

小三郎倅
小野藤三郎

同年八月十七日

同断
竹間吉之助跡

右遠江守殿被仰渡候段、作右衛門殿立合土佐守殿被申渡候

同年十二月十八日

同断
浜田太平次跡

同断
和田松次郎跡

右式廉撰津守殿被仰渡候段、左京殿立合土佐守殿被申渡候

文政九戌年二月廿三日

御抱入之者
小林小藤次跡

右遠江守殿被仰渡候段、五郎兵衛殿立合主膳殿被申渡候

同年三月十八日

同断
高橋磯三郎跡

右肥後守殿被仰渡候段、伊賀守殿立合九郎右衛門殿被申渡候

同年四月十二日

同断

鈴木宇右衛門組
吉之助從弟

龜田三右衛門

同人組

太平次実子
浜田春平

松次郎從弟
和田源次郎

鈴木宇右衛門組

七郎兵衛倅
松本常次郎

同人組

寿平倅
山本兼太郎

同人組

繁八郎倅

寺山庄五郎跡

矢村寅次郎

右河内守殿被仰渡候段、九郎右衛門殿立合主膳殿被申渡候

御抱入之者

川村吉三郎跡

川村鉄五郎

右総介殿被仰渡候段、九郎右衛門殿立合左京殿被申渡候

同年四月九日

同人組

仁三郎倅

神尾紀太郎跡

川村惣三郎

文政十亥年正月廿三日

同人組

新太郎倅

右河内守殿被仰渡候段、伊賀守殿立合土佐守殿被申渡候

同断
桜井泰藏跡

小林忠次郎

右肥後守殿被仰渡候段、伊賀守殿立合主膳殿被申渡候

同年六月晦日

同人組

九兵衛倅

同断
山本兼太郎跡

永田金吉

同年

同人組

八郎右衛門倅

同断
清水弁吉跡

今井馬之助

同年八月廿二日

同人組

順平又甥

同断
三橋順平跡

三橋次助

同年八月廿三日

同人組

八兵衛倅

右肥後守殿被仰渡候段、伊賀守殿立合五郎兵衛殿被申渡候

同断
関口彦惣跡

小林平八

右遠江守殿被仰渡候段、土佐守殿立合豊後守殿被申渡候

同年十一月廿九日

同人組

伝吉倅

同断
川村利三郎跡

下山午之助

同年十一月廿日

同人組

五太夫倅

右遠江守殿被仰渡候段、帶刀殿立合九郎右衛門殿被申渡候

同断
伊沢惣吉跡

高田五平次

右河内守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿立合内匠殿被申渡候

同年十二月廿八日

同年十二月十七日

同断

横田大吉跡

同人組

大吉美子

横田源三郎

右撰津守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿立合左京殿被申渡候

同年十二月廿七日

同断

荒井亀吉跡

同人組

寿平倅

山本仲五郎

(朱書)

「新規」

御抱入之者

鈴木宇右衛門組

豊三郎從弟

佐々木益之丞

右式廉河内守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿立合伊賀守殿被申渡

候

同年十二月廿九日

(朱書)

「部屋住より」

同断

山本猪三郎跡

同人組

茂十郎倅

井田茂八郎

同人組

与惣右衛門倅

渡辺喜三郎

永田金吉跡

部屋住より

同人組

軍次郎倅

三橋啓五郎

小林平吉跡

同

同人組

磯三郎倅

高橋兼吉

山県権左衛門跡

同

右四廉撰津守殿被仰渡候段、豊後守殿立合十郎左衛門殿被申渡

候

文政十一子年四月廿九日

同人組

藤左衛門倅

高橋金一郎

同人組

十之丞弟

恒川伊三郎

羽田留吉跡

同

恒川十之丞跡

右式廉河内守殿被仰渡候段、土佐守殿立合伊賀守殿被申渡候

同年八月廿一日

同断

橋本作三郎跡

同

甚五右衛門倅

桜井鉄太郎

右河内守殿被仰渡候段、九郎右衛門殿立合十郎左衛門殿被申渡候

同年十二月廿七日

同人組

善太郎倅

黒沢源之丞

同人組

啓十郎倅

加藤芳之丞

鈴木宇右衛門組

庄三郎又從弟

江本駒次郎

右三廉撰津守殿被仰渡候段、豊後守殿立合帶刀殿被申渡候

同断

江本庄三郎跡

同年十二月廿三日

同人組

林平倅

同断

平島伝吉跡 部屋住より 松永信吉
右撰津守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿立合修理殿被申渡候

文政十二丑年五月廿六日

同断 同人組 善之丞倅 伊沢可十郎
中島五郎吉跡 同

右肥後守殿被仰渡候段、帶刀殿立合五郎作殿被申渡候

同年八月十一日

新規 同人組 友次郎從弟 高橋金藏
高橋友次郎跡

右撰津守殿被仰渡候段、五郎作殿立合豊後守殿被申渡候

同年十一月廿六日

同断 同人組 七藏倅 三浦弁吉
遠宮幸内跡 部屋住より

右肥後守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合五郎作殿被申渡候

同年十二月廿日

新規 同人組 幸次郎從弟 鈴木団吉
同断 鈴木幸次郎跡

右河内守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿立合修理殿被申渡候

天保元寅年正月廿七日

同断 同人組 善藏倅 関口市太郎
加藤三郎助跡 同

同断 同人組 半之助倅 秋元源之助
武藤栄藏跡 同

右式廉撰津守殿被仰渡、五郎作殿立合修理殿被申渡候

同年閏三月廿八日

新規 鈴木宇右衛門組 為吉弟 高田庫三郎
御抱入之者 高田為吉跡

右肥後守殿被仰渡候段、五郎作殿立合豊後守殿被申渡候

同年閏三月廿九日

同断 同人組 又吉倅 中山又五郎
山崎鉄五郎跡 部屋住より

右肥後守殿被仰渡候段、修理殿立合勝次郎殿被申渡候

同年六月十六日

御目付江

御中間

次郎兵衛弟

田口岩吉

忠藏弟

望月幸太郎

幾右衛門三男

安藤季五郎

七平次男

安川善四郎

小野弥兵衛次男

田中市兵衛

市川藤四郎甥

伊藤清吉

松永清三郎甥

須田半之助

万兵衛次男

脇坂伝内

岩瀬泉助甥

近沢久蔵

郷左衛門三男

鎌方太三郎

長八郎次男

堀内長三郎

半次郎三男

和田源八郎

右御中間江新規御抱入可申渡旨撰津守殿被仰渡候段、中務殿

立合十郎左衛門殿被申渡候

同年九月廿九日

御抱入之者

小池仁右衛門跡

古沢茂右衛門組

平作倅

大野定吉

右河内守殿被仰渡候段、十郎左衛門殿立合中務殿被申渡候

同年十月晦日

同断

古沢兵吉跡

鈴木宇右衛門組

金左衛門倅

山口善吉

部屋住より

同断

小宮山大助跡

同人組

市蔵倅

羽田茂十郎

同断

山本仲五郎跡

同人組

利右衛門倅

荒井鉄太郎

右三廉相模守殿被仰渡候段、勝次郎殿立合市左衛門殿被申渡候

同年十二月 日

同断

小宮山与平跡

同人組

与平甥

小宮山常右衛門

右大和守殿被仰渡候段、豊後守殿立合中務殿被申渡候

天保二卯年四月廿六日

同断

岩場孫十郎跡

同人組

次郎左衛門倅

津岡金次郎

右大和守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合修理殿被申渡候

同年六月三日

同断

下山牛之助跡

同人組

又四郎倅

犬塚鉄太郎

右肥後守殿被仰渡候段、中務殿立合勝次郎殿被申渡候

同年十二月十六日

同断

高田五平次跡

同人組

藤九郎倅

遠宮代太郎

同

右大和守殿被仰渡候段、主膳殿立合中務殿被申渡候

同年十二月廿二日

同断

河野新六郎跡

同人組

新六郎美子

河野捨次郎

右大和守殿被仰渡候段、主膳殿立合主馬殿被申渡候

同年十二月廿五日

御抱入之者

高橋金一郎跡

鈴木宇右衛門組

太兵衛倅

野村幸次郎

右大和守殿被仰渡候段、主馬殿立合主膳殿被申渡候

天保三辰年八月廿四日

新規

同断

岩堀晴七郎跡

同人組

晴七郎弟

岩堀晴八郎

右肥前守殿被仰渡候段、讚岐守殿立合市左衛門殿被申渡候

同年閏十一月八日

同断

中山又五郎跡

同人組

一平倅

部屋住より 石原鎗次郎

右河内守殿被仰渡候段、平四郎殿立合市左衛門殿被申渡候

同年十二月八日

同人組

同断
井田茂八郎跡

右肥前守殿被仰渡候段、讚岐守殿立合播磨守殿被申渡候

同年十二月廿八日

同断

小林平八跡

同人組

与八郎倅

斎藤九郎次

右肥前守殿被仰渡候段、市左衛門殿立合主馬殿被申渡候

天保四巳年二月十四日

同断

寺山專之助跡

同人組

專之助從弟

寺山源六郎

右相模守殿被仰渡候段、中務殿立合平四郎殿被申渡候

同年八月 日

同断

遠宮代太郎跡

同人組

孫之丞倅

鈴木牛五郎

右肥後守殿被仰渡候段、平四郎殿立合主膳殿被申渡候

同年十一月 日

御抱入之者

鳥貝利惣次跡

鈴木宇右衛門組

登一郎倅

部屋住より 小宮山鋏次郎

右相模守殿被仰渡候段、讚岐守殿立合小四郎殿被申渡候

同年十二月朔日

同断

大浜亀八跡

右前同断

同年

同断

石原鎗次郎跡

右

天保五午年 月 日

同断

高野弁次郎跡

右

同年 月 日

同断

熊沢為五郎跡

右

同

同断

横田善次郎跡

同人組

忠左衛門倅

永田林吉

同

同人組

錠之助倅

部屋住より
池谷錠太郎

同人組

金兵衛倅

鳥飼万吉

同

同人組

平作倅

西村平次郎

同

同人組

善次郎弟

横田大助

右

天保六未年五月廿八日

同断

荒井鋏太郎跡

右

同年 月

御抱入之者

三橋啓五郎跡

右

同年 月

同断

三橋次助跡

右

同年

同断

恒川藤助跡

右

天保七申年六月七日

同人組

山崎辰五郎

小野弥兵衛組

猪三郎倅

部屋住より
山本金八

同人組

次助從弟

新規
三橋兼吉

同人組

藤助從弟

恒川武二郎

同人組

同断
神谷紀平次跡
九左衛門倅
加藤長之助

右河内守殿被仰渡候段、平四郎殿立合舍人殿被申渡候

同日

同断
松坂金次郎跡
九左衛門倅
加藤長之助

右前同断

同日

同断
岡部弥太郎跡
同人組
林之助倅
荒井謙三郎

右前同断

同年四月十九日

同断
荒井吉五郎跡
同人組
小十郎倅
和田卯十郎

同断
小岩井佐之助跡
同人組
三右衛門倅
龜田三次郎

右式廉大和守殿被仰渡候段、五郎作殿立合左内殿被申渡候

同年十一月廿八日

御抱入之者
浅見辰三郎跡
新規
小野弥兵衛組
辰三郎從弟
浅見常太郎

右肥後守殿被仰渡候段、伊勢守殿立合采女殿被申渡候

天保八酉年 月

同断
宇佐美幸之丞跡
部屋住より
高田幸三郎

同断
高田茂左衛門跡
同人組
与作倅
関根金八郎

右式廉肥後守殿被仰渡候段、伊勢守殿被申渡候

同年十二月七日

同断
山県立蔵跡
同人組
立蔵実子
山県熊蔵

右相模守殿被仰渡候段、修理殿立合左内殿被申渡候

同日

同断
沼田豊次郎跡
同人組
豊次郎從弟
島田甚蔵

右前同断

同年

同断
津岡藤蔵跡
同人組
弥太郎倅
岡部豊太郎

右相模守殿被仰渡候段、采女殿立合修理殿被申渡候

同年

同人組
熊三郎弟
神谷新次郎

右相模守殿被仰渡候段、伊勢守殿立合左兵衛殿被申渡候

同年

同人組
斧三郎從弟
伊藤金次郎

右大和守殿被仰渡候段、庄左衛門殿立合舍人殿被申渡候

同年十二月十八日

小野弥兵衛組
三平倅
高野作藏

御抱人之者
秋元源之助跡
右大和守殿被仰渡候段、舍人殿立合庄左衛門殿被申渡候

同年十二月廿六日

同人組
歳七倅
永井松之助

同人組
馬之助倅
山崎友太郎

同人組
弥六倅
田野村銀藏

同人組
為之助從弟

中島為之助跡
中村伊之助

右四廉堀大和守殿被仰渡候段、左兵衛殿立合庄左衛門殿被申渡候

同年十二月廿八日

同人組
源三郎実子
小川久五郎

右大和守殿被仰渡候段、左内殿立合主馬殿被申渡候

同年十二月廿二日

同人組
利右衛門倅
荒井政五郎

深谷与十郎跡
右大和守殿被仰渡候段、庄左衛門殿立合舍人殿被申渡候

天保九戌年三月廿七日

同人組
惠次郎倅
橋本佐吉

三橋国五郎跡
右内膳正殿被仰渡候段、左内殿立合主馬殿被申渡候

同年四月十日

同人組
藤右衛門養子
中山清太郎

西村平次郎跡
右相模守殿被仰渡候段、修理殿立合主馬殿被申渡候

同年四月十一日

御抱入之者
石原源太左衛門跡
右前同断

小野弥兵衛組
幾右衛門倅
安藤己太郎

三浦紋次郎跡

深谷米吉

右大和守殿被仰渡候段、
靱負殿立合五兵衛殿被申渡候

同年十月廿七日

同年四月十三日

同断
伊沢可十郎跡

同人組
文左衛門倅
笹川周蔵

同断
鳥飼金兵衛跡

同人組
新八郎倅
熊沢岩五郎

右玄蕃頭殿被仰渡候段、
三蔵殿立合五兵衛殿被申渡候

同年十月晦日

同年六月十六日

同断
犬塚鉄四郎跡

同人組
彦四郎倅
宇佐美和三郎

同断
平井覺次郎跡

同人組
覺次郎從弟
鈴木俊平

右玄蕃頭殿被仰渡候段、
耀蔵殿立合伊勢守殿被申渡候

右肥後守殿被仰渡候段、
靱負殿立合主水殿被申渡候

同年十二月廿九日

同年六月十三日

同断
伊藤猪十郎跡

同人組
藤三郎倅
柏原長十郎

御抱入之者
水野鉄太郎跡

小野弥兵衛組
為三郎倅
荒井伝三郎

右相模守殿被仰渡候段、
三蔵殿立合主馬殿被申渡候

天保十亥年八月廿六日

同断
龜田三右衛門跡
右式廉被仰渡前同断

同人組
与右衛門養子
吉田長次郎

同断
柏原長三郎跡

同人組
長三郎倅
小金井六太郎

右肥後守殿被仰渡候段、
三蔵殿立合采女殿被申渡候

同年八月廿八日

同断

同人組
与十郎倅

同年九月朔日

同断
平島小市郎跡

同断
小市郎実子
平島龜吉

右玄蕃頭殿被仰渡候段、采女殿立合主馬殿被申渡候

同年十一月十日

同断
鈴木益作跡

同断
清九郎倅
小磯龜次郎

同断
安藤己太郎跡

同断
弥三郎倅
川村藤助

右式廉大和守殿被仰渡候段、丹宮殿立合三藏殿被申渡候

天保十一子年 月 日

同断
橋本半三郎跡

同断
畔柳丈之進組
半三郎実子
橋本好次郎

右

同年十一月三日

同断
小川庄平跡

同断
多四郎倅
船川勝太郎

右豊後守殿被仰渡候段、耀藏殿立合主計頭殿被申渡候

天保十二丑年四月 日

同断

同断
平作倅

船川多四郎跡

西村安次郎

右

同年五月 日

御抱入之者
高田幸三郎跡

畔柳丈之進組
源次郎倅
和田源之丞

右

同年十一月廿日

新規
同断
中山藤助跡

同断
中山藤助徒弟
佐藤勝次郎

右伊勢守殿被仰渡候段、忠五郎殿立合金之丞殿被申渡候

同年十一月十九日

(朱書)
「御抱入之者」
藤村太一郎跡

同断
奥右衛門倅
大浜三之丞

右伊勢守殿被仰渡候段、松平四郎殿立合桜井庄兵衛殿被申渡候

天保十三寅年三月 日

同断
松永林三郎跡

同断
本左衛門倅
岩堀鉄之助

右

同

同断
西村安次郎跡

同人組
一作倅
神谷龜平

同年七月 日

同断
関口彦左衛門跡

同人組
御中間忠作倅
神田勝之助

天保十二年十二月廿四日

新規

同人組

同年九月四日

同断
深谷金右衛門跡
右 殿被仰渡候

深谷金右衛門從弟
矢部善次郎

同断
今井長五郎跡

同人組
御中間松五郎倅
朝倉松之助

天保十三寅年 月

(朱書)

同人組

天保十四卯年三月 日

「御抱入之者」
右 龜田三次郎跡

三次郎弟
龜田鉄之助

同断
野村幸次郎跡

同人組
御中間藤之丞倅
小野正太郎

同年四月九日

御抱入之者

畔柳丈之進組
嘉一從弟

同年五月廿七日

右伊勢守殿被仰渡候段、鐘^(次)太郎殿立合四郎殿被申渡候

木津源太郎

同断
高田邦助跡

同人組
御中間林平倅
松永房次郎

同年六月十三日

同断

同人組
御中間鉄三郎倅
棚沢啓太郎

同年六月六日

右 村川助太郎跡

同断
関根与作跡

同人組
御中間可十郎倅
伊沢健次郎

同年十一月廿五日

右
同断
齋藤九郎次跡

萩原又作組
御中間万七倅
鳥貝久太郎

龜田鉄之助跡
右伺之通被仰渡相濟

龜田金之助

右
同断
松本常次郎跡

同人組
御中間九郎次倅
齋藤鉄太郎

同断
高野作蔵跡
右被仰渡相濟

同人組
御中間贊左衛門倅
平井国助

弘化元辰年八月十四日御扣共三通大内蔵殿江差出、翌十五日

(朱引)

同断
橋本佐吉跡
右伺之通被仰渡相濟

萩原又作組
御中間国三郎倅
三橋和吉

弘化三年五月廿九日

同断
荒井利右衛門跡
右但馬守殿被仰渡候段、市右衛門殿立合隼之助殿被申渡候

同人組
御中間長五郎倅
今井才次郎

同年十一月廿一日内匠殿江差出候処十二月廿日

同断
吉田長次郎跡
右伺之通被仰渡相濟

同人組
御中間孫兵衛倅
浅見鉄次郎

同断
小林忠次郎跡
右主膳正殿被仰渡候段、市右衛門殿立合能登守殿被申渡候

同人組
御中間伊之助倅
中村亀二郎

(朱書)
「部屋住ニ而他向江御役出致居其儘父家督ニ相成候節、元組跡抱相伺候例

同年十二月十六日

同断

同人組御中間
鉄之助弟

小野弥兵衛組御中間
次郎左衛門実子
御留守居
松平内匠頭組同心
津岡藤蔵

右藤藏儀父次郎左衛門家督被下置、元
組御切米御扶持方明キニ罷成候二付、
天保八酉年十月同組御中間岡部弥太郎
倅豊太郎儀跡抱奉願候処、同月伺之通
相模守殿被仰渡候

御中間頭
萩原又作

同日

同断
佐藤清之助跡

同人組

御中間午作倅
西村彦太郎

右御同人被仰渡候段、御同人立合御同人被申渡候

同断
小野鍬太郎跡

同人組

御中間大次郎倅
山本八五郎

右主膳正殿被仰渡候段、隼之助殿立合織部殿被申渡候

同年七月廿四日

同断
田野村弥六跡

杉野甚平組

御中間定六倅
石川市太郎

右主膳正殿被仰渡候段、半左衛門殿立合隼之助殿被申渡候

同年九月十二日

同断
中山清太郎跡

杉野甚平組

御中間新平倅
近藤仙太郎

右主膳正殿被仰渡候段、市右衛門殿立合鉄之丞殿被申渡候

同年十一月十日

同断

小宮山忠兵衛跡

同人組

御中間又八倅
太田定次郎

右安芸守殿被仰渡候段、清次郎殿立合隼之助殿被申渡候

弘化四未年二月十九日

同断
深谷米吉跡

同人組

御中間鎌四郎倅
内山定三郎

右主膳正殿被仰渡候段、稻葉清次郎殿立合中務少輔殿被申渡候

同年五月四日

同断

龜田重次郎跡

同人組御中間

重次郎從弟
龜田鉄次郎

右安芸守殿被仰渡候段、御同人立合御同人被申渡候

同年十二月九日

同断
神田勝之助跡

同人組

御中間伝十郎倅
藤村金吾

右安芸守殿被仰渡候段、中務少輔殿立合清次郎殿被申渡候

(朱書)

「但孫御抱入願之節是迄祖父之年數調認候
処、以来祖父之廉并例書共相添定例之
通跡抱願取調候事」

同年十二月廿七日

同断
関根三吉跡

同人組
御中間次左衛門倅
竹中半之助

右越中守殿被仰渡候段、御立合無之大沢仁十郎殿被申渡候

嘉永元申年十二月

同断
桜井源藏跡

同人組
御中間源太左衛門倅
石原源吾

同断
和田源之丞跡

同人組
御中間助太郎倅
村川幾之助

同断
岩堀直太郎跡

同人組
御中間瀬平倅
横川鯉一郎

右三廉越中守殿被仰渡候段、市右衛門殿立合甚兵衛殿被申渡候

嘉永二酉年六月八日

同断
松永房次郎跡

同人組
御中間才兵衛倅
萩原禎次郎

右安芸守殿被仰渡候段、井戸鉄太郎殿立合長谷川甚兵衛殿被申渡候

同年十二月晦日

同断
荒井賢藏跡

同人組
御中間清兵衛倅
清水金平

右但馬守殿被仰渡候段、甚兵衛殿立合大沢仁十郎殿被申渡候

嘉永三戌年七月五日

同断
亀田鉄次郎跡

同人組御中間
從弟
朝夷小太郎

右主膳正殿被仰渡候段、大久保彦左衛門殿立合仁十郎殿被申渡候

同年七月七日

同断
黒沢善太郎跡

同人組
御中間市次郎倅
野口米藏

右主膳正殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合鉄太郎殿被申渡候

(朱書)
「右黒沢善太郎儀年寄候迄御奉公三拾九年無懈怠相勤候三付、
為御褒美銀三枚被下置候旨主膳正殿被仰渡候事」

同年七月

同断
山口善一郎跡

同人組
御中間常次郎倅
松本藤太郎

右主膳正殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合仁十郎殿被申渡候

同年八月廿日

同断
熊沢重五郎跡

同人組御中間幸助倅
高橋政太郎

右但馬守殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合仁十郎殿被申渡候

同年八月廿七日

同断
今井才次郎跡

同人組
御中間与十郎倅
深谷幸蔵

右但馬守殿被仰渡候段、御立合無之甚左衛門殿被申渡候

同年八月

同断
加藤芳之丞跡

同人組
御中間庄作倅
伊藤彦作

右但馬守殿被仰渡候段、市右衛門殿立合隼之助殿被申渡候

同年十一月廿九日

同断
斎藤幾五郎跡

同人組
御中間貫作倅
河野貫一郎

同断
萩原禎次郎跡

同人組
御中間太一郎倅
藤村董太郎

右式廉主膳正殿被仰渡候段、甚左衛門殿立合鉄太郎殿被申渡候

同年十二月九日

同断

同人組
御中間捨次郎倅

宇佐美喜三郎跡

同人組
高橋鉞之助

同断
湯沢彦次郎跡

同人組
御中間賑作倅
吉沢泰蔵

同断
山本金八跡

同人組
御中間安五郎倅
今井長十郎

右三廉被仰渡相濟

嘉永四亥年三月十二日

同断
小宮山太郎右衛門跡

同人組
御中間豊五郎倅
真壁釜五郎

右主膳正殿被仰渡候段、甚左衛門殿立合彦左衛門殿被申渡候

同年八月十九日

同断
朝夷小太郎跡

從弟違
龜田三五郎

右但馬守殿被仰渡候段、鉄太郎殿立合市郎兵衛殿被申渡候

同年十一月十三日

同断
和田源次郎跡

同人組御中間
源次郎実子
和田源之助

右主膳正殿被仰渡候段、市郎兵衛殿立合彦左衛門殿被申渡候

同断
河野平八郎跡

同人組御中間
平八郎弟
河野政次郎

右被仰渡前同断

同年十二月十三日

同断
高橋勝藏跡

右但馬守殿被仰渡候段、鉄太郎殿立合十郎兵衛殿被申渡候

嘉永五子年五月

御抱入之者
笹川周藏跡
右被仰渡相濟

同断
棚沢啓太郎跡

右前同断

同年十二月廿五日

同断
矢村斧右衛門跡

右安芸守殿被仰渡候段、御目付孫太夫殿立合彦左衛門殿被申渡候

同年十二月廿六日

同断
黒沢昇一郎跡

右安芸守殿被仰渡候段、新五兵衛殿立合市郎兵衛殿被申渡候

同日

同断
小川健三郎跡

右安芸守殿被仰渡候段、新五兵衛殿立合市郎兵衛殿被申渡候

同年十二月

同断
石原源吾跡

同断
龜田三五郎跡
右被仰渡相濟

嘉永六丑年三月 日

同断
中村伊之助跡

右土佐守殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合市郎兵衛殿被申渡候

同年十一月廿八日

同断
浜田清吉跡

同断
三橋国三郎跡

右右京亮殿被仰渡候段、永井岩之丞殿立合彦左衛門殿被申渡候

同人組

御中間長之助倅

加藤 鋏吉

同人組

御中間小伝次倅

小林官之丞

同人組

御中間桑三郎倅

小宮山豊作

伊藤次兵衛組

御中間善平倅

山本文次郎

同人組御中間

昇一郎実子

黒沢昇八郎

同人組

御中間十郎左衛門倅

小宮山定吉

同人組御中間

文左衛門倅

笹川文蔵

同人組御中間

三五郎從弟

井上新太郎

同人組御中間押

金左衛門倅

山口政次郎

同人組御中間

清吉実子

浜田清三郎

同人組御中間

次郎助倅

秋元鍋次郎

同年十二月八日

同断

和田小十郎跡

右被仰渡相濟

同人組御中間

忠作倅

神田源次郎

笹川文藏跡

柏原藤吉

右安芸守殿被仰渡候段、九郎兵衛殿立合四郎左衛門殿被申渡候

同年十二月八日

同人組御中間

五四郎倅

橋本菊次郎

同断

野口米藏跡

同人組御中間

銀之助倅

眞壁政太郎

右出羽守殿被仰渡相濟

右出羽守殿被仰渡候段、四郎左衛門殿立合民部少輔殿被申渡候

同断

山本八五郎跡

安政元寅年四月六日

同断

神谷一作跡

同人組御中間

伝八倅

鷹巢銀之丞

新規

同断

池田金助跡

同人組

池田金助

從弟違

中村啓之丞

右丹波守殿被仰渡候段、新五兵衛殿立合金四郎殿被申渡候

右丹波守殿被仰渡候段、九郎兵衛殿立合四郎左衛門殿被申渡候

同断

船川小八跡

同人組御中間

七郎左衛門倅

稲田鏡次郎

同年十二月 日

右

同断

浅見久太郎跡

同人組御中間

浅見久太郎從弟

加藤幸右衛門

同年十一月三日

同断

永田林太郎跡

同人組御中間

源三郎倅

荒井羆松

右右京亮殿被仰渡候段、一学殿立合邦之輔殿被申渡候

安政二卯年八月 日

同断

安藤嘉兵衛跡

同人組

嘉兵衛実子

安藤嘉一郎

同年十一月十九日

同断

同人組御中間

五兵衛倅

右

同年八月廿五日

(朱書)

「御抱入之者」
羽田善作跡

同人組
惣助倅

川村市三郎

右但馬守殿被仰渡候段、四郎左衛門殿立合邦之輔殿被申渡候

同年十一月

同人組

新藏倅

小林平太郎

同断
川村惣助跡

右

同年十二月八日

同人組

徳十郎倅

小林嘉太郎

同断
完倉豊一郎跡

右丹波守殿被仰渡候段、勘助殿立合駿河守殿被申渡候

同年十二月

伊藤次兵衛組

小宮山松三郎從弟

竹中虎市

新規御抱入之者
小宮山松三郎跡

右

安政三辰年二月十三日

矢村斧右衛門組

彦太夫倅

関口大八郎

御抱入之者
伊沢兵九郎跡

右丹波守殿被仰渡候段、右近將監殿被申渡候

同年三月廿九日

同人組

啓藏美子

芦名清藏

新規御抱入之者
芦名啓藏跡

右安芸守殿被仰渡候段、久之丞殿立合半三郎殿被申渡候

同年四月廿六日

同人組

宮古長兵衛從弟

松井宗次郎

同断
宮古長兵衛跡

右丹波守殿被仰渡候段、半三郎殿立合邦之輔殿被申渡候

同年七月廿八日

同人組

作藏倅

高野安太郎

御抱入之者
荒井伝三郎跡

右安芸守殿被仰渡候段、半三郎殿立合邦之輔殿被申渡候

同年八月七日

同人組

清四郎倅

松永由次郎

同断
山崎政八郎跡

右丹波守殿被仰渡候段、邦之輔殿立合半三郎殿被申渡候

同年八月朔日

同人組

黒沢貞藏從弟

同断

黒沢貞蔵跡

富岡領左衛門

右越中守殿被仰渡候段、左京殿立合邦之輔殿被申渡候

同年十月十一日

從部屋住御抱入之者

同人組

清五郎倅

吉沢泰蔵跡

石掛鉄太郎

右右京亮殿被仰渡候段、半三郎殿立合邦之輔殿被申渡候

同年十月十五日

同断

真壁釜五郎跡

矢村斧右衛門組

啓五郎倅

三橋欽之助

右右京亮殿被仰渡候段、邦之輔殿立合久之丞殿被申渡候

同年十月晦日

御抱入之者

同人組

喜三郎倅

藤村伝十郎跡

宇佐美新太郎

同人組

豊之助倅

同断

内山虎三郎跡

津岡兼太郎

右式廉右京亮殿被仰渡候段、鉦蔵殿立合半三郎殿被申渡候

同年十二月

同断

小金井幸十郎跡

同人組

弥左衛門倅

成島弥太郎

右丹波守殿被仰渡候段、勘助殿立合半三郎殿被申渡候

安政四巳年閏五月廿五日

同人組

為三郎倅

同断

高野安太郎跡

荒井金之助

右安芸守殿被仰渡候段、半三郎殿立合彈正殿被申渡候

同年十一月四日

從部屋住御抱入之者

同人組

彦五郎倅

加藤楸吉跡

宮川由次郎

右右京亮殿被仰渡候段、四郎左衛門殿立合鉦蔵殿被申渡候

同年十一月七日

御抱入之者

同人組

政右衛門倅

荒井為三郎跡

山崎正次郎

右右京亮殿被仰渡候段、鉦蔵殿立合伝七郎殿被申渡候

同年十二月九日

同断

江本源助跡

同人組

源助実子

江本錦之丞

同断

川目熊四郎跡

同人組

賑作倅

吉沢峰松

右式廉安芸守殿被仰渡候段、鉦蔵殿立合左京殿被申渡候

安政五年二月二日

從部屋住御抱入之者

矢村斧右衛門組

重五郎倅

山崎友太郎跡
熊沢鎮助
右但馬守殿被仰渡候段、
鉦藏殿立合左京殿被申渡候

同年六月三日

同人組
文左衛門倅
笹川兼三郎
同断
三橋欽之助跡
右但馬守殿被仰渡候段、
金三郎殿立合伝七郎殿被申渡候

同年八月五日

同人組
市太郎弟
川目銀三郎
同断
川目市太郎跡
右越中守殿被仰渡候段、
金三郎殿立合鉦藏殿被申渡候

同年十月廿三日

同人組
和吉弟
三橋銚平
同断
三橋和吉跡
右但馬守殿被仰渡候段、
正三郎殿立合次郎兵衛殿被申渡候

同年十一月十三日

同人組
六藏倅
羽田市藏
同断
高橋鉦次郎跡
右但馬守殿被仰渡候段、
伯耆守殿立合次郎兵衛殿被申渡候

同年十二月八日

同人組
清三郎倅
川村政之助
從部屋住御抱入之者
松永由次郎跡

右但馬守殿被仰渡候段、
十太郎殿立合左中殿被申渡候

安政六未年四月廿一日

同人組
金田豊三郎組
太兵衛倅
野村熊八郎
同断
川村政之助跡
右对馬守殿被仰渡候段、
彈正殿立合權之助殿被申渡候

同年九月廿八日

同人組
大次郎倅
山本慶次郎
御抱入之者
神田源次郎跡
右越中守殿被仰渡候段、
伯耆守殿立合八十五郎殿被申渡候

同年十一月廿七日

同人組
益作倅
鈴木孫作
從部屋住御抱入之者
清水金平跡
右遠江守殿被仰渡候段、
十太郎殿立合八十五郎殿被申渡候

万延元年三月廿四日

同人組
領左衛門弟
富岡光藏
御抱入之者
富岡領左衛門跡
右遠江守殿被仰渡候段、
八十五郎殿立合主膳殿被申渡候

同年三月廿一日

從部屋住御抱入之者

石川又吉跡

同人組

勇助倅

佐久間松太郎

右遠江守殿被仰渡候段、三郎四郎殿立合十太郎殿被申渡候

同年三月晦日

御抱入之者

笹川文左衛門跡

同人組

新十郎倅

風間幸太郎

右遠江守殿被仰渡候段、十太郎殿立合三郎四郎殿被申渡候

天保十二丑年十一月廿日

新規御抱入之者

中山藤助跡

畔柳丈之進組

中山藤助從弟

佐藤勝次郎

右伊勢守殿被仰渡候段、忠五郎殿立合金之丞殿被申渡候

天保十四卯年十月

同斷

淺見常太郎跡

同人組

常太郎從弟違

淺見久太郎

右

同年十二月

同斷

三橋桂三郎跡

萩原又作組

桂三郎弟

三橋寅次郎

右

弘化元辰年四月

同斷

小宮山常右衛門跡

同人組

常右衛門甥

小宮山松三郎

右

弘化二巳年八月

新規御抱入之者

三橋万次郎跡

萩原又作組

三橋万次郎從弟

岩崎友藏

右

同年十一月廿八日

同斷

伊藤定吉跡

同人組

定吉甥

伊藤政次郎

右但馬守殿被仰渡候段、市右衛門殿立合隼之助殿被申渡候

同年十二月三日

同斷

石原甚平跡

同人組

甚平実子

石原勇平

右但馬守殿被仰渡候段、三五郎殿立合織部殿被申渡候

同年十二月十四日

同断
小林藤兵衛跡

同人組
藤兵衛妻子
小林力太郎

右安芸守殿被仰渡候段、隼之助殿立合三三五郎殿被申渡候

弘化四未年五月四日

同断
小林力太郎跡

杉野甚平組
力太郎弟
小林平次郎

右但馬守殿被仰渡候段、清次郎殿立合中務少輔殿被申渡候

同年七月 日

同断
伊藤政次郎跡

同人組
伊藤政次郎甥
島垣忠三郎

右越中守殿被仰渡候段、鉄之丞殿立合市右衛門殿被申渡候

嘉永元申年六月

同断
島垣忠三郎跡

同人組
島垣忠三郎從弟
小林徳五郎

右但馬守殿被仰渡候段、能登守殿立合甚兵衛殿被申渡候

同年十二月廿二日

同断
佐藤勝次郎跡

同人組
勝次郎從弟
佐藤小三郎

右越中守殿被仰渡候段、能登守殿立合市右衛門殿被申渡候

嘉永二酉年八月十日

新規御抱入之者
寺山源六郎跡

右主膳正殿被仰渡候段、甚兵衛殿立合能登守殿被申渡候

嘉永三戌年三月十日

同断
岩崎友藏跡

同人組
岩崎友藏從弟
池田金助

右主膳正殿被仰渡候段、鶉殿甚左衛門殿立合三宅市右衛門殿被申渡候

同年八月廿日

同断
石原勇平跡

同人組
勇平從弟
石原政助

右但馬守殿被仰渡候段、彦左衛門殿立合仁十郎殿被申渡候

同年十二月十一日

同断
朝倉金之助跡

同人組
金之助妻子
朝倉定次郎

右但馬守殿被仰渡候段、井戸鉄太郎殿立合松本十郎兵衛殿被申渡候

嘉永四亥年八月廿五日

同断

同人組
小林惣五郎從弟

小林惣五郎跡

大原道藏

右但馬守殿被仰渡候段、孫太夫殿立合市郎兵衛殿被申渡候

同年八月廿九日

同人組

小三郎從弟

同断
佐藤熊之助

佐藤熊之助

右但馬守殿被仰渡候段、甚兵衛殿立合孫太夫殿被申渡候

嘉永六丑年十一月廿九日

伊藤次兵衛組

渡辺銅吾從弟

同断
渡辺銅吾跡

宮古新平

右右京亮殿被仰渡候段、十郎兵衛殿立合邦之輔殿被申渡候

安政三辰年四月廿六日

矢村斧右衛門組

菊之助弟

同断
寺山菊之助跡

寺山隼太

右丹波守殿被仰渡候段、半三郎殿立合 殿被申渡候

同年十二月二日

矢村斧右衛門組

權十郎実子

新規御抱入之者
鹿島權十郎跡

鹿島金次郎

右越中守殿被仰渡候段、津田半三郎殿立合松平久之丞殿被申渡候

同年十二月十二日

同人組

利三郎実子

同断
鳥貝利三郎跡

鳥貝平太郎

右丹波守殿被仰渡候段、木村勘助殿立合津田半三郎殿被申渡候

安政四巳年十二月九日

同人組

權平実子

同断
川目權平跡

川目卯太郎

右安芸守殿被仰渡候段、左京殿立合鉦藏殿被申渡候

同年十二月廿七日

同人組

寺山隼太從弟

同断
寺山隼太跡

岡田豊藏

右越中守殿被仰渡候段、鉦藏殿立合四郎左衛門殿被申渡候

安政五年年四月十九日

同人組

虎市弟

同断
竹中虎市跡

竹中養五郎

右越中守殿被仰渡候段、左中殿立合伝七郎殿被申渡候

同年十一月廿七日

同人組

芦名三藏從弟

同断
芦名三藏跡

中島伊三郎

右对馬守殿被仰渡候段、十太郎殿立合正三郎殿被申渡候

安政六未年十一月八日

同断
石原政助跡

金田豊三郎組

政助美子

石原国太郎

右右京亮殿被仰渡候段、健次郎殿立合次郎兵衛殿被申渡候

同年十二月廿八日

新規御抱入之者
三橋登九郎跡

金田豊三郎組

三橋登九郎從弟

吉川藤太郎

右遠江守殿被仰渡候段、九八郎殿立合次郎兵衛殿被申渡候

万延元申年十月十四日

同断
山口吉次郎跡

高橋金之助組

山口吉次郎從弟

足立国^(野)之助

右但馬守殿被仰渡候段、揖斐与右衛門殿立合浅田^(野)一学殿被申渡候

同年十二月八日

同断
川目卯太郎跡

同人組

卯太郎弟

川目誠之助

右出雲守殿被仰渡候段、山口勘兵衛殿立合大草主膳殿被申渡候

同年十二月廿九日

同断
安藤兼五郎跡

同人組

兼五郎弟

安藤忠右衛門

右右京亮殿被仰渡候段、服部平^(掃)太殿立合溝口八十五郎殿被申渡候

文久元酉年三月廿八日

同断
神谷龜平跡

同人組

龜平從弟

神谷門次郎

右和泉守殿被仰渡候段、服部掃一殿立合京極兵庫殿被申渡候

本文中※印部は記述年代と記述内容が食い違うと思われる個所である。
 記述年代と想定年代は次表の通りである。
 人名索引作成にあたって記述内容は想定年代で作成した。

3 6 下段		3 6 上段		3 5 下段		3 5 上段		3 3 下段			3 3 上段			3 2 下段			6 上段		本文頁			
																			記述年代	想定年代		
「同年」五月七日	「天保三辰年」四月十日	「同年」九月十五日	「文政十二丑年」閏四月廿九日	「同年」閏八月廿七日	「文政十亥年」二月廿二日	「同年」十月四日	「文政九戌年」四月十六日	「同年」九月十四日	「文政六未年」八月十日	「文政四巳年」九月廿三日	「文政三辰年」十一月十四日	「文政二卯年」三月十八日	「文政元寅年」三月十七日	「同年」五月朔日	「文化十三子年」四月廿日	「文化十二亥年」五月六日	「文化十一戌年」十一月八日	「文化十酉年」十二月三日	「同年」九月廿六日	「文化九申年」九月廿五日	「同年」十一月十二日	「同年」十月三日
「文政三辰年」	「文政三辰年」	「文化十四丑年」	「文化十四丑年」	「文化十三子年」	「文化十二亥年」	「文化十二亥年」	「文化十一戌年」	「文化十酉年」	「文化八未年」	「文化六巳年」	「文化五辰年」	「文化四卯年」	「文化三寅年」	「文化元子年」	「文化元子年」	「享和三亥年」	「享和二戌年」	「享和元酉年」	「寛政十二申年」	「寛政十二申年」	「文化二丑年」	「文化二丑年」

